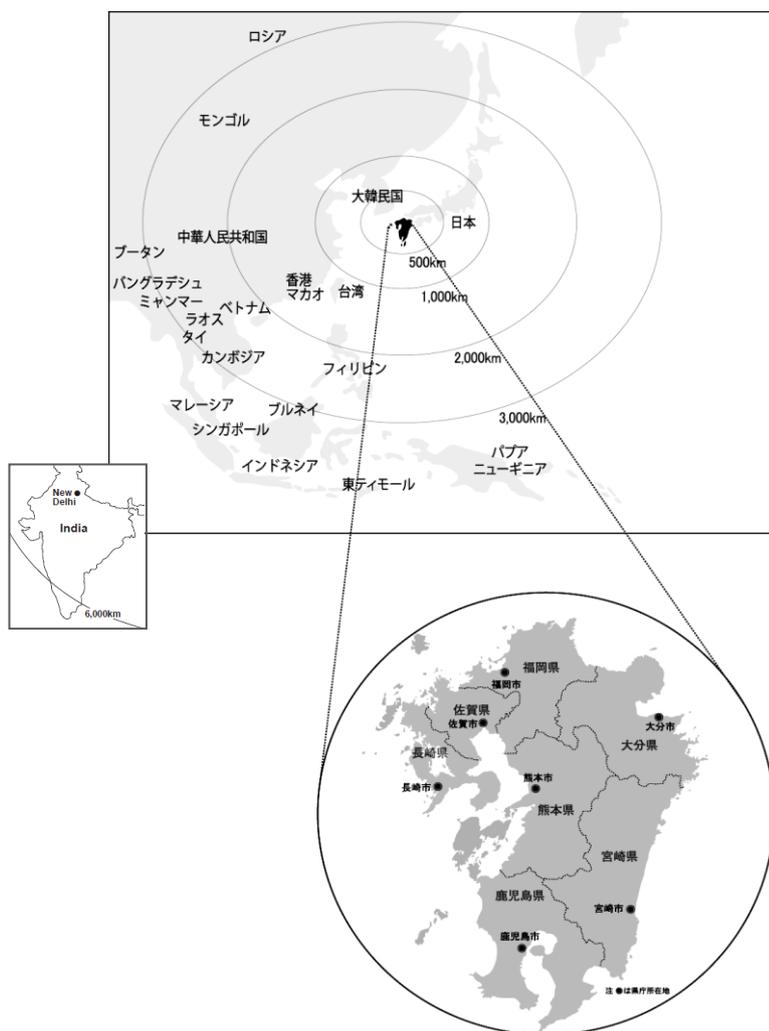


第1部 九州の国際化についての基礎データ

第1章 九州の特徴

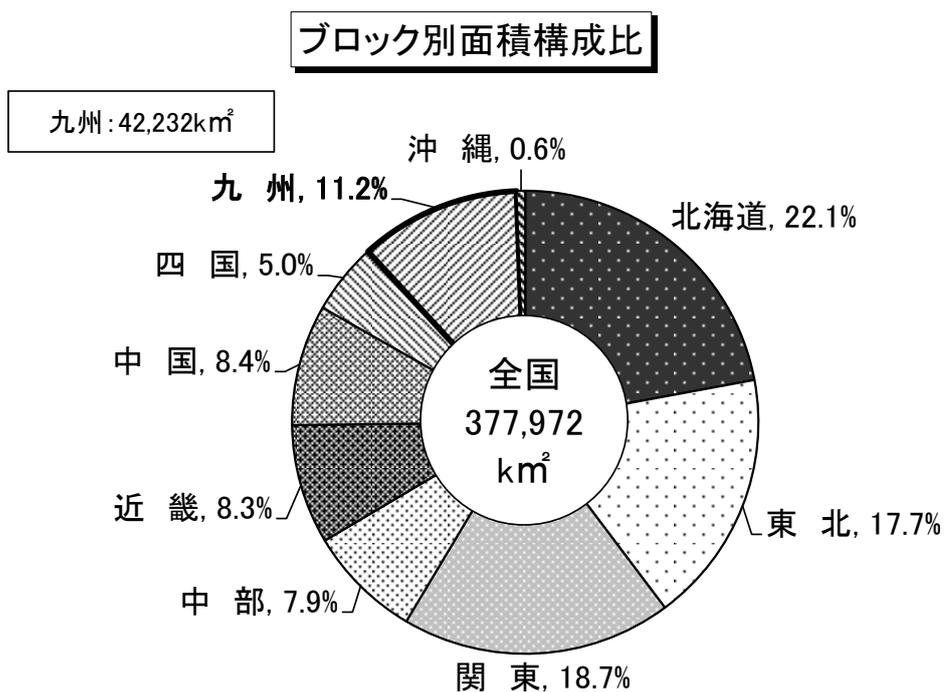
- 九州は、東アジアのほぼ中心に位置し、日本の中では韓国や中国と地理的に近く、歴史的にも西のゲートウェイ(玄関口)として、海外との交流拠点としての役割を担ってきた。
- 九州の経済規模は「1割経済」と言われるように、面積(全国比11.2%)や人口(同10.3%)等でも全国の約1割を占めている。一方、基幹産業であるICの生産金額では同29.6%、自動車生産台数では同14.7%、農業産出額では同19.8%を占める。
- 九州の域内生産額は、ベルギー等と同等の経済規模である。
- 九州の2016年の経済活動全体に占める対アジアの割合を「アジア度」として算出し全国と比較すると、「輸入額」を除いた5項目について、九州の「アジア度」が全国よりも高く、九州経済はアジアとの結びつきが強いことがうかがえる。



福岡から各都市までの距離

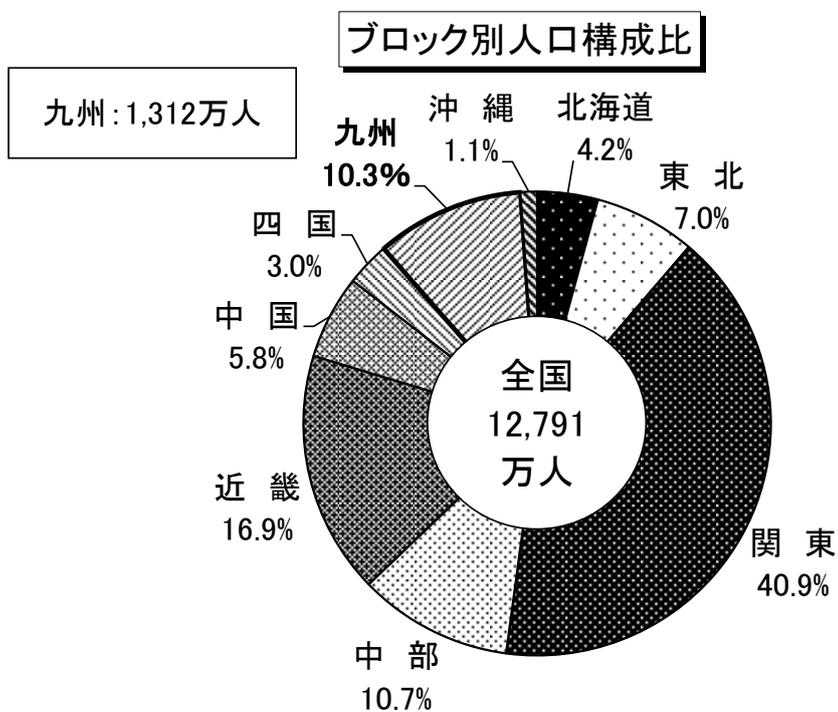
広島	211km
釜山(韓国)	214km
大阪	486km
ソウル(韓国)	535km
上海(中国)	873km
東京	889km
青島(中国)	957km
大連(中国)	980km
札幌	1,421km
北京(中国)	1,422km

図表 1-1-1 九州の面積構成比



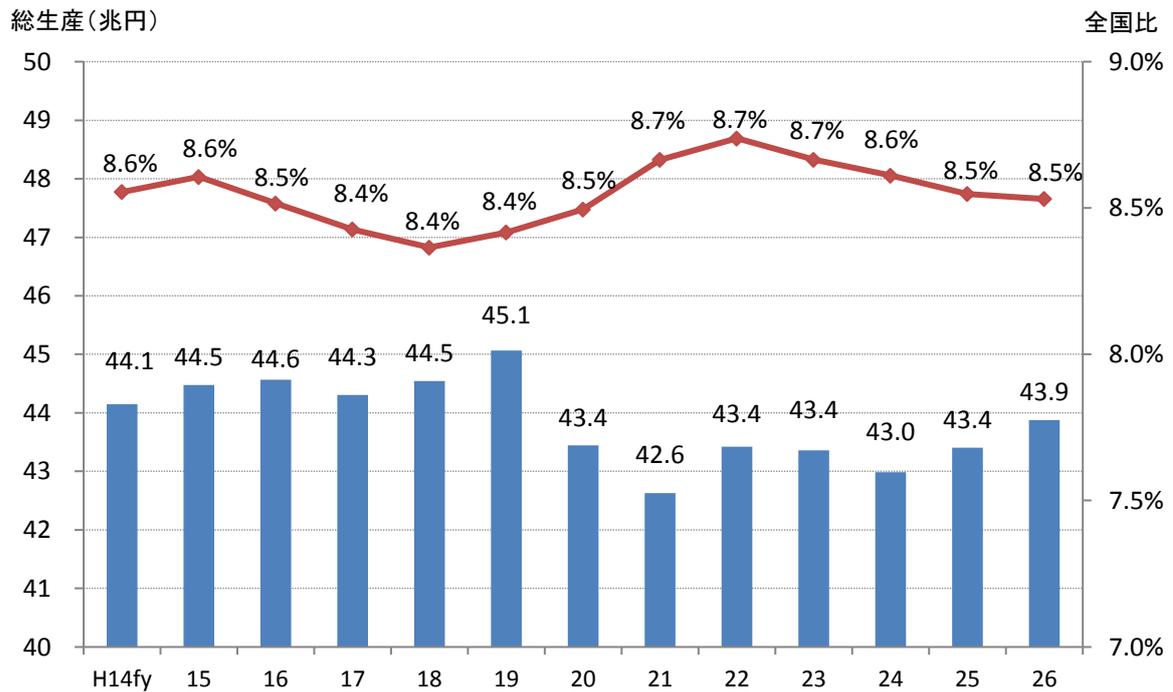
出所：国土交通省国土地理院「平成 28 年全国都道府県市区町村別面積調」より九州経済産業局作成。

図表 1-1-2 九州の人口構成比

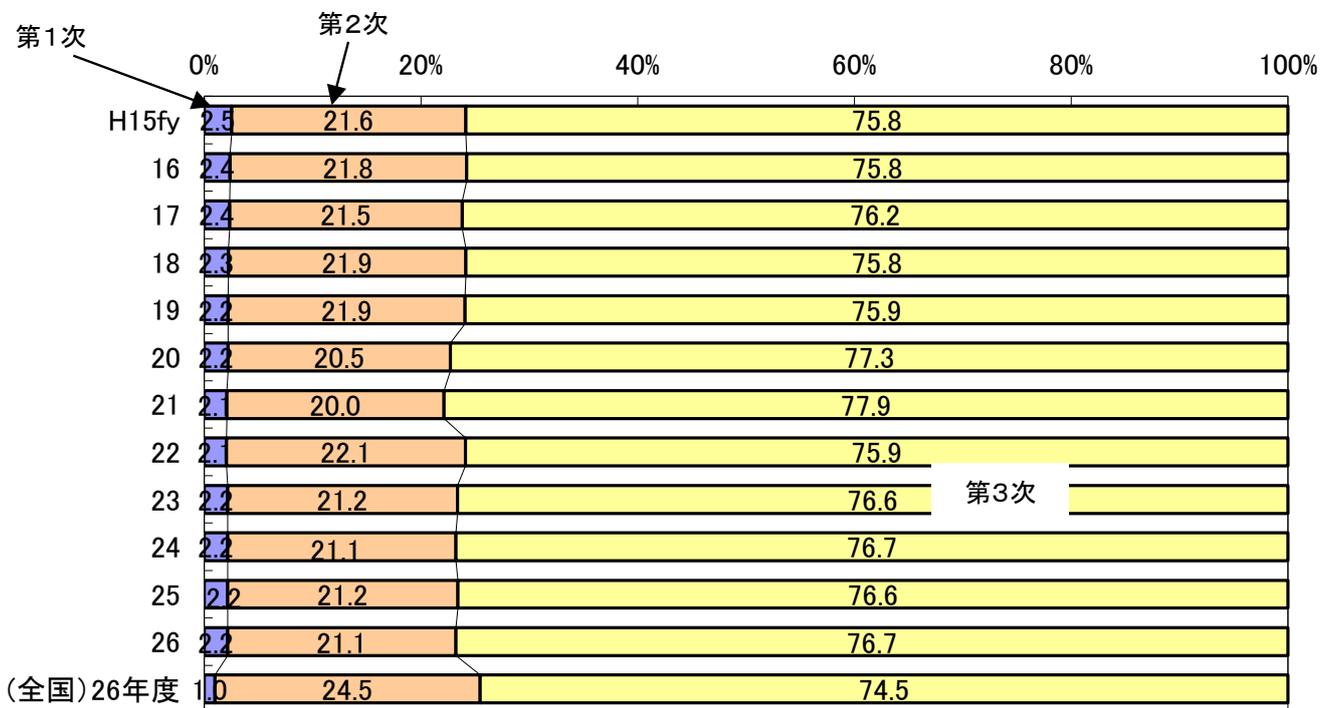


出所：総務省「住民基本台帳人口要覧 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成 29 年 1 月 1 日現在）」より九州経済産業局作成。

図表 1-1-3 九州の域内総生産（名目）・全国比の推移



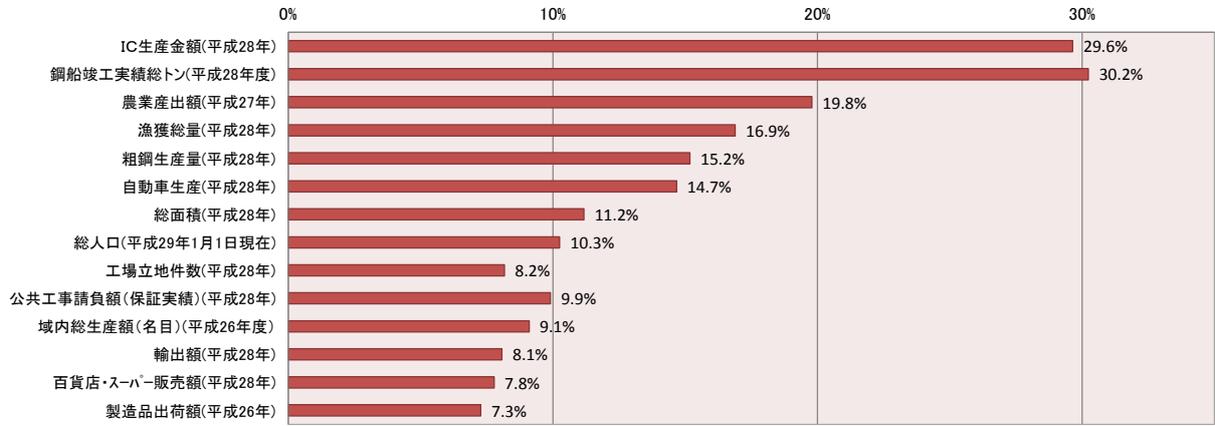
図表 1-1-4 九州の域内総生産の産業別構成比



図表 1-1-3~4 出所：内閣府「平成 26 年度県民経済計算」より九州経済産業局作成（「九州経済の現状 2017 年夏号」掲載）。

図表 1-1-5 全国に対する九州のシェアと地域ブロックの“域力”

全国に対する九州のシェア



項目	データ			単位	出所
	九州	全国	九州/全国		
IC生産金額	6,733	22,715	29.6%	億円	九州経済産業局調べ(平成28年)
鋼船竣工実績総トン	3,782	12,507	30.2%	千総トン	国交省「造船機統計調査」(平成29年4月)九州運輸局
農業産出額	17,541	88,631	19.8%	億円	農林水産省、九州農政局「平成27年農業産出額及び生産農業所得(確報)」
漁獲総量	54	322	16.9%	万トン	農林水産省「平成28年漁業・養殖業生産統計 平成29年4月25日公表分」
粗鋼生産量	15,900	104,775	15.2%	千トン	九州経済産業局調べ(平成28年)
自動車生産	135	920	14.7%	万台	九州経済産業局調べ(平成28年)
総面積	42,232	377,972	11.2%	km ²	国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」(平成28年)
総人口	1,312	12,791	10.3%	万人	総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数(H29.1.1現在)」
工場立地件数	84	1,028	8.2%	件	九州経済産業局調べ(平成28年速報)
公共工事請負額(保証実績)	14,142	142,743	9.9%	億円	西日本建設業保証協(平成28年分)
域内総生産額(名目)	399,163	4,383,584	9.1%	億円	内閣府「平成26年度県民経済計算」
輸出額	56,548	700,358	8.1%	億円	財務省貿易統計(平成28年)より九州経済産業局作成
百貨店・スーパー販売額	15,245	195,948	7.8%	億円	九州経済産業局調べ(平成28年)
製造品出荷額	222,052	3,051,400	7.3%	億円	経済産業省「平成26年工業統計(確報)」

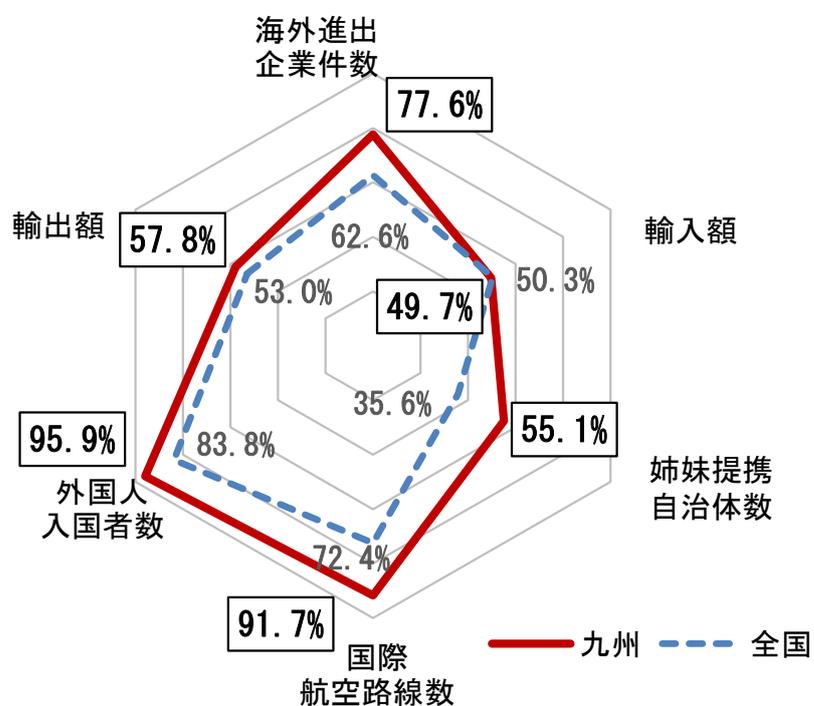
順位	国名及び地域名	域内総生産 (100万米ドル)	人口 (千人)	面積 (万km ²)	順位	国名及び地域名	域内総生産 (100万米ドル)	人口 (千人)	面積 (万km ²)	順位	国名及び地域名	域内総生産 (100万米ドル)	人口 (千人)	面積 (万km ²)	
1位	アメリカ合衆国	18,036,648	308,746	983	11位	韓国	1,377,873	48,580	10		中部	544,906	13,669	3	
2位	中国	11,158,457	1,339,725	960	12位	ロシア	1,326,016	143,436	1710		21位	台湾	523,009	22,673	4
3位	日本	4,383,584	127,095	38	13位	オーストラリア	1,230,859	21,727	769		22位	スウェーデン	495,694	9,483	44
4位	ドイツ	3,363,600	80,220	36	14位	スペイン	1,192,955	46,816	51		23位	ナイジェリア	494,583	140,432	92
5位	イギリス	2,858,003	63,380	24	15位	メキシコ	1,140,724	112,337	196		24位	ポーランド	477,066	38,045	31
6位	フランス	2,418,946	61,400	55	16位	インドネシア	861,934	237,641	191		25位	ベルギー	455,107	11,001	3
7位	インド	2,116,239	1,210,855	329		近畿	763,022	21,617	3		九州	399,163	13,120	4	
	関東	2,084,530	52,292	7	17位	オランダ	750,318	16,656	4		26位	イラン	398,563	75,150	163
8位	イタリア	1,821,580	59,434	30	18位	スイス	670,790	8,035	4		27位	トルコ	395,168	74,526	8
9位	ブラジル	1,772,591	190,756	852	19位	サウジアラビア	653,219	27,137	221		28位	タイ	395,168	65,982	51
10位	カナダ	1,552,808	33,477	998	20位	アルゼンチン	632,343	40,117	278		29位	ノルウェー	386,578	4,980	32

(出所)各国データ(日本を含む)は総務省「世界の統計2017」
 国内地域ブロックの域内総生産は、内閣府「平成26年度県民経済計算」に基づき、各地域の割合から推定。
 国内地域ブロックの面積は国土交通省「平成28年全国都道府県市区町村別面積調」。
 国内地域ブロックの人口は総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数(H29.1.1現在)」

出所：「九州経済の現状 2017年夏号」より。

九州の「アジア度」

図表 1-1-6 九州と全国のアジア度の比較



項目	単位	九州			全国		
		アジア	世界	アジア度	アジア	世界	アジア度
海外進出企業件数	件	771	994	77.6%	18,719	29,904	62.6%
輸入額	億円	22,173	44,643	49.7%	331,988	660,420	50.3%
姉妹提携自治体数	件	102	185	55.1%	612	1,717	35.6%
国際航空路線数	路線	33	36	91.7%	255	352	72.4%
外国人入国者数	人	2,214,404	2,309,519	95.9%	19,451,400	23,218,912	83.8%
輸出額	億円	32,676	56,548	57.8%	371,070	700,358	53.0%

備考：「輸入額」「外国人入国者数」「輸出額」は2016年1年間の数値、「海外進出企業件数」「姉妹提携自治体数」は2016年までの累計件数、「国際航空路線数」は2016年時点で確認できる数値を掲載。

出所：財務省「貿易統計」、(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2016」、東洋経済新報社「海外進出企業総覧2017(国別編)」、法務省「出入国管理統計年報」、JTBパブリッシング「JTB時刻表2017年3月号」、(一財)自治体国際化協会ホームページより九州経済産業局作成。

第2章 九州の貿易

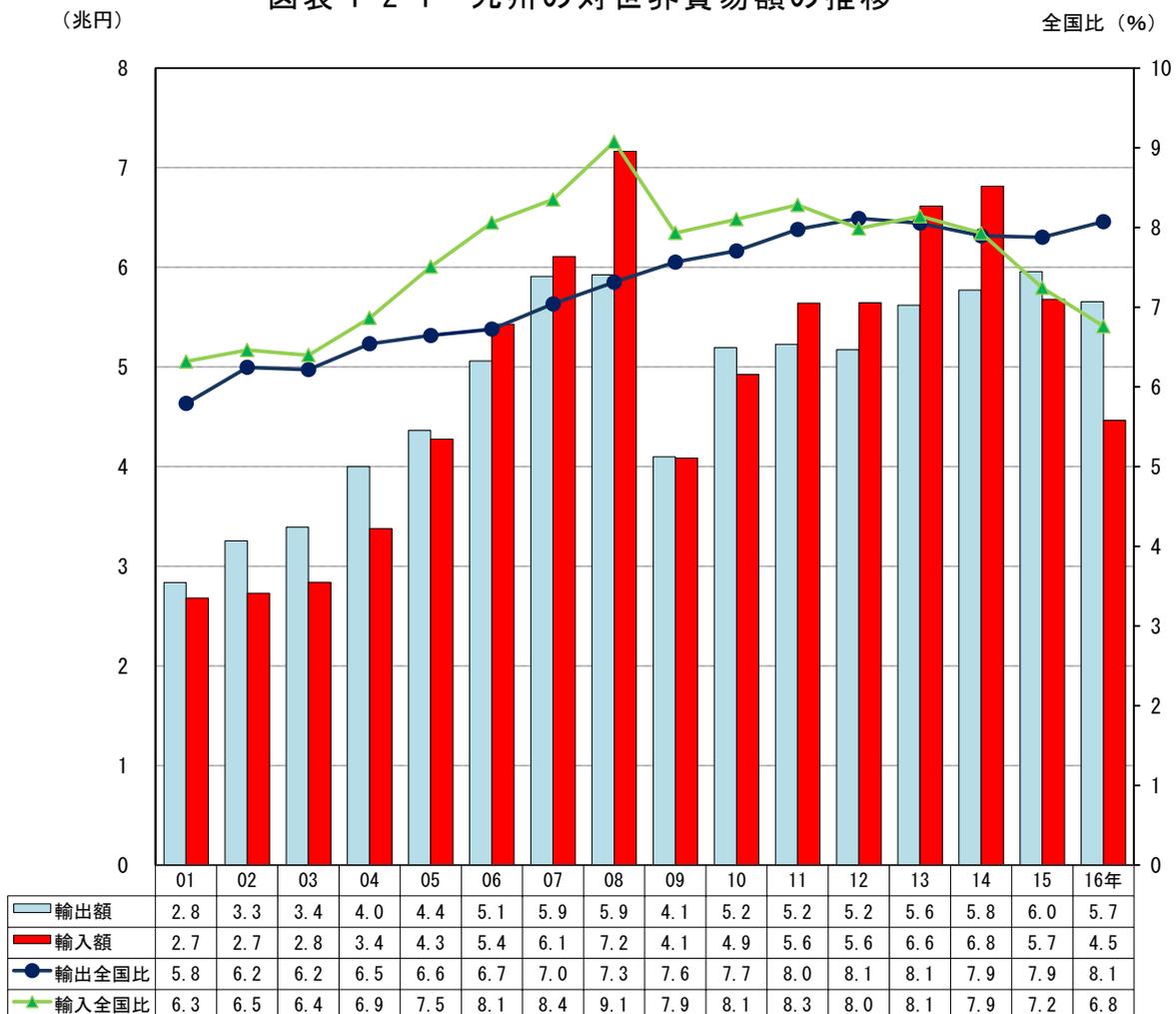
1. 九州と世界の貿易動向

- 2016年の九州の貿易額は、輸出が5兆6,548億円（前年比5.1%減）と4年ぶりに前年より減少し、輸入は4兆4,643億円（前年比21.4%減）と2年連続で減少した。
- 輸出の国別では、中国向け（寄与度：▲3.0%）、台湾向け（同▲0.9%）、シンガポール向け（同▲0.9%）などの輸出額が減少した。米国向け（同+1.5%）、イタリア向け（同+1.0%）、韓国向け（同+0.6%）などの輸出額は増加した。
- 輸入の国別では、中国（寄与度：▲3.3%）、サウジアラビア（同▲2.6%）、オーストラリア（同▲2.2%）などの輸入額が減少した。
- 九州の貿易額が全国に占める割合は、輸出は8.1%で前年より増加したのに対し、輸入は6.8%と前年より減少し、12年ぶりに7%を下回った。

★2016年のポイント★

前年に比べて円高が進行したため、輸出入額とも目減りした。輸出額については、4月の熊本地震の影響などがあったものの、自動車等が牽引し、小幅な減少にとどまった。一方、輸入については、原油等資源価格の前年からの下落の影響により大幅に減少し、結果、2年連続の貿易黒字となった。

図表 1-2-1 九州の対世界貿易額の推移



出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 1-2-2 九州の国・地域別輸出入動向（2016年）

（単位：億円、％）

国・地域	輸出					輸入				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	全国比	金額	構成比	伸び率	寄与度	全国比
韓国	7,451	13.2%	5.1%	0.6%	14.8%	2,625	5.9%	-4.5%	-0.2%	9.6%
中国	10,887	19.3%	-14.3%	-3.0%	8.8%	9,097	20.4%	-16.9%	-3.3%	5.3%
台湾	3,374	6.0%	-13.8%	-0.9%	7.9%	2,424	5.4%	-14.3%	-0.7%	9.7%
香港	2,772	4.9%	4.0%	0.2%	7.6%	129	0.3%	30.8%	0.1%	6.1%
ベトナム	1,254	2.2%	-7.9%	-0.2%	8.9%	1,101	2.5%	-3.2%	-0.1%	6.2%
タイ	1,637	2.9%	-5.4%	-0.2%	5.5%	1,522	3.4%	-11.6%	-0.4%	7.0%
シンガポール	1,800	3.2%	-22.7%	-0.9%	8.4%	192	0.4%	-47.3%	-0.3%	2.4%
マレーシア	1,156	2.0%	-8.3%	-0.2%	8.8%	782	1.8%	-37.2%	-0.8%	4.2%
ブルネイ	10	0.0%	-18.8%	0.0%	10.8%	0.1	0.0%	-99.9%	-0.2%	0.0%
フィリピン	679	1.2%	-8.1%	-0.1%	6.0%	1,217	2.7%	-1.0%	0.0%	12.4%
インドネシア	745	1.3%	-15.8%	-0.2%	6.1%	2,588	5.8%	-9.2%	-0.5%	13.0%
カンボジア	27	0.0%	40.1%	0.0%	8.0%	29	0.1%	-24.7%	0.0%	2.2%
ラオス	2	0.0%	70.7%	0.0%	1.6%	3	0.0%	-9.6%	0.0%	2.7%
ミャンマー	69	0.1%	-16.0%	0.0%	6.1%	27	0.1%	2.9%	0.0%	2.6%
インド	580	1.0%	-19.6%	-0.2%	6.5%	368	0.8%	6.7%	0.0%	7.2%
オーストラリア	807	1.4%	-3.1%	0.0%	5.3%	4,514	10.1%	-22.0%	-2.2%	13.6%
ニュージーランド	98	0.2%	12.4%	0.0%	4.1%	86	0.2%	8.6%	0.0%	3.4%
米国	7,676	13.6%	13.0%	1.5%	5.4%	2,454	5.5%	-21.0%	-1.2%	3.4%
カナダ	365	0.6%	-7.8%	-0.1%	4.1%	819	1.8%	-21.0%	-0.4%	8.2%
パナマ	1,471	2.6%	52.4%	0.8%	23.9%	93	0.2%	150.0%	0.1%	24.3%
メキシコ	1,150	2.0%	-20.0%	-0.5%	9.9%	962	2.2%	49.8%	0.6%	15.4%
ブラジル	194	0.3%	-42.8%	-0.2%	6.4%	1,274	2.9%	-17.2%	-0.5%	17.4%
チリ	260	0.5%	-17.0%	-0.1%	15.3%	810	1.8%	-12.3%	-0.2%	13.7%
コロンビア	139	0.2%	-32.1%	-0.1%	13.4%	107	0.2%	-81.8%	-0.8%	15.5%
ドイツ	756	1.3%	-2.6%	0.0%	3.9%	369	0.8%	-17.8%	-0.1%	1.5%
英国	734	1.3%	8.8%	0.1%	5.0%	150	0.3%	-16.8%	-0.1%	2.1%
オランダ	1,285	2.3%	-6.4%	-0.1%	10.0%	84	0.2%	3.3%	0.0%	3.3%
イタリア	876	1.5%	185.8%	1.0%	17.1%	92	0.2%	-6.5%	0.0%	1.0%
フランス	357	0.6%	21.6%	0.1%	5.5%	361	0.8%	16.7%	0.1%	3.3%
スウェーデン	91	0.2%	-11.7%	0.0%	5.8%	47	0.1%	-18.2%	0.0%	2.0%
スペイン	501	0.9%	21.8%	0.2%	16.3%	160	0.4%	-24.1%	-0.1%	4.0%
ノルウェー	9	0.0%	-10.5%	0.0%	0.8%	242	0.5%	39.5%	0.1%	12.6%
ベルギー	426	0.8%	-9.0%	-0.1%	6.9%	27	0.1%	-23.6%	0.0%	1.0%
ロシア	303	0.5%	-14.5%	-0.1%	5.5%	1,080	2.4%	-44.2%	-1.5%	8.8%
サウジアラビア	683	1.2%	-23.6%	-0.4%	12.5%	3,024	6.8%	-32.4%	-2.6%	14.2%
アラブ首長国連邦	1,343	2.4%	-12.9%	-0.3%	15.5%	2,074	4.6%	-33.4%	-1.8%	11.0%
クウェート	122	0.2%	-62.0%	-0.3%	6.6%	630	1.4%	-48.9%	-1.1%	13.7%
イラン	25	0.0%	362.0%	0.0%	4.0%	43	0.1%	78.8%	0.0%	1.2%
オマーン	112	0.2%	-52.8%	-0.2%	4.0%	272	0.6%	-21.5%	-0.1%	14.2%
カタール	188	0.3%	-14.8%	-0.1%	11.3%	386	0.9%	-52.8%	-0.8%	3.3%
南アフリカ共和国	176	0.3%	-25.2%	-0.1%	7.3%	235	0.5%	-33.0%	-0.2%	5.1%
総額	56,548	100.0%	-5.1%	-5.1%	8.1%	44,643	100.0%	-21.4%	-21.4%	6.8%

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 1-2-3 10年前と比較した全国・九州の輸出相手国・地域（上位5カ国・地域）

（単位：億円、％）

2006年			2016年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	169,336	22.5%	米国	141,429	20.2%
中国	107,937	14.3%	中国	123,614	17.7%
韓国	58,489	7.8%	韓国	50,204	7.2%
台湾	51,313	6.8%	台湾	42,677	6.1%
香港	42,390	5.6%	香港	36,515	5.2%
その他	322,996	42.9%	その他	305,918	43.7%
総計	752,462	100.0%	総計	700,358	100.0%
九州			九州		
米国	8,664	17.1%	中国	10,887	19.3%
中国	8,079	16.0%	米国	7,676	13.6%
韓国	5,654	11.2%	韓国	7,451	13.2%
台湾	3,977	7.9%	台湾	3,374	6.0%
香港	2,490	4.9%	香港	2,772	4.9%
その他	21,730	42.9%	その他	24,389	43.1%
総計	50,595	100.0%	総計	56,548	100.0%

図表 1-2-4 10年前と比較した全国・九州の輸入相手国・地域（上位5カ国・地域）

（単位：億円、％）

2006年			2016年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	137,844	20.5%	中国	170,190	25.8%
米国	79,112	11.7%	米国	73,221	11.1%
サウジアラビア	43,253	6.4%	オーストラリア	33,211	5.0%
アラブ首長国連邦	36,722	5.5%	韓国	27,221	4.1%
オーストラリア	32,479	4.8%	台湾	24,953	3.8%
その他	344,033	51.1%	その他	331,624	50.2%
総計	673,443	100.0%	総計	660,420	100.0%
九州			九州		
中国	7,731	14.2%	中国	9,097	20.4%
サウジアラビア	6,048	11.1%	オーストラリア	4,514	10.1%
アラブ首長国連邦	5,364	9.9%	サウジアラビア	3,024	6.8%
オーストラリア	4,230	7.8%	韓国	2,625	5.9%
インドネシア	3,830	7.1%	インドネシア	2,588	5.8%
その他	27,092	49.9%	その他	22,796	51.1%
総計	54,294	100.0%	総計	44,643	100.0%

図表 1-2-3～4 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 1-2-5 10年前と比較した全国・九州の輸出品目（上位5品目）

（単位：億円、%）

2006年			2016年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
自動車	113,329	15.1%	自動車	113,329	16.2%
半導体等電子部品	36,072	4.8%	半導体等電子部品	36,072	5.2%
自動車の部分品	34,617	4.6%	自動車の部分品	34,617	4.9%
原動機	24,163	3.2%	原動機	24,163	3.5%
科学光学機器	20,461	2.7%	科学光学機器	20,461	2.9%
その他	523,819	69.6%	その他	471,715	67.4%
総計	752,462	100.0%	総計	700,358	100.0%
九州			九州		
自動車	6,674	13.2%	自動車	13,346	23.6%
半導体等電子部品	5,888	11.6%	半導体等電子部品	6,581	11.6%
船舶類	4,410	8.7%	船舶類	4,795	8.5%
映像機器	4,318	8.5%	鉄鋼のフラットロール製品	3,482	6.2%
鉄鋼のフラットロール製品	3,317	6.6%	半導体等製造装置	3,012	5.3%
その他	25,987	51.4%	その他	25,332	44.8%
総計	50,595	100.0%	総計	56,548	100.0%

図表 1-2-6 10年前と比較した全国・九州の輸入品目（上位5品目）

（単位：億円、%）

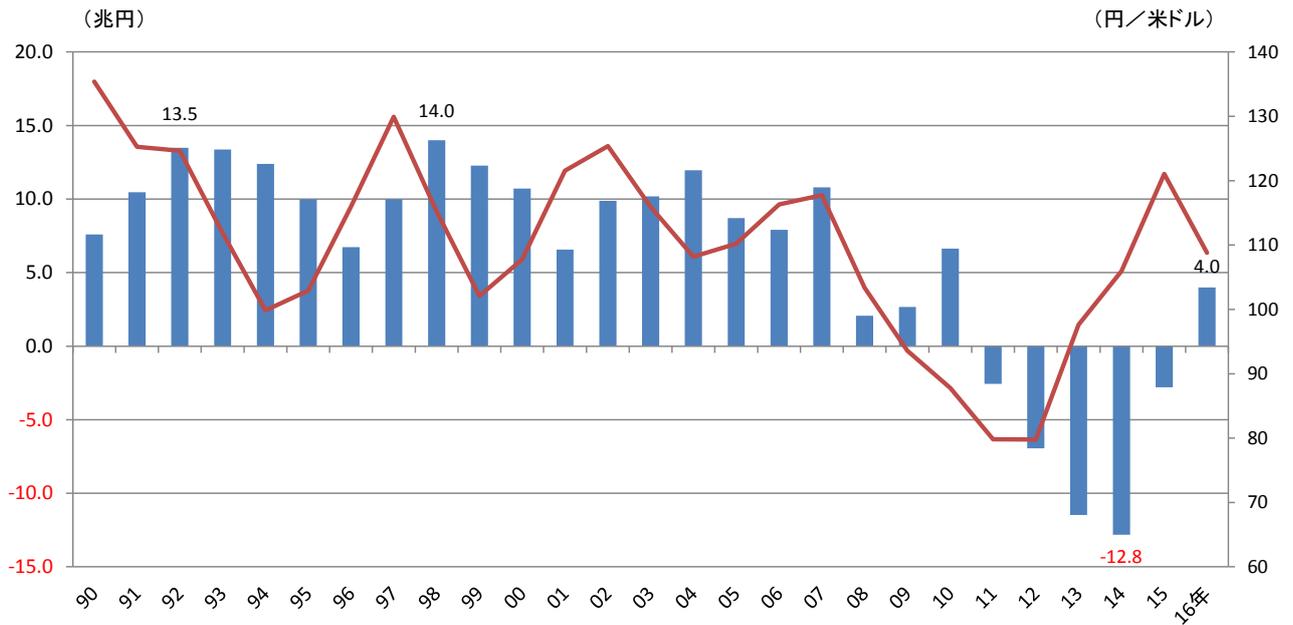
2006年			2016年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
原油及び粗油	55,319	8.2%	原油及び粗油	55,319	8.4%
石油ガス類	37,291	5.5%	石油ガス類	37,291	5.6%
通信機	27,224	4.0%	通信機	27,224	4.1%
半導体等電子部品	25,146	3.7%	半導体等電子部品	25,146	3.8%
事務用機器	22,688	3.4%	事務用機器	22,688	3.4%
その他	505,774	75.1%	その他	492,751	74.6%
総計	673,443	100.0%	総計	660,420	100.0%
九州			九州		
原油及び粗油	18,441	34.0%	原油及び粗油	7,389	16.6%
非鉄金属鉱	3,222	5.9%	石炭	3,010	6.7%
半導体等電子部品	3,088	5.7%	非鉄金属鉱	2,831	6.3%
石油ガス類	2,833	5.2%	石油ガス類	2,731	6.1%
石炭	2,828	5.2%	半導体等電子部品	2,466	5.5%
その他	23,881	44.0%	その他	26,216	58.7%
総計	54,294	100.0%	総計	44,643	100.0%

図表 1-2-5～6 備考：輸出入品目は小分類ベース。

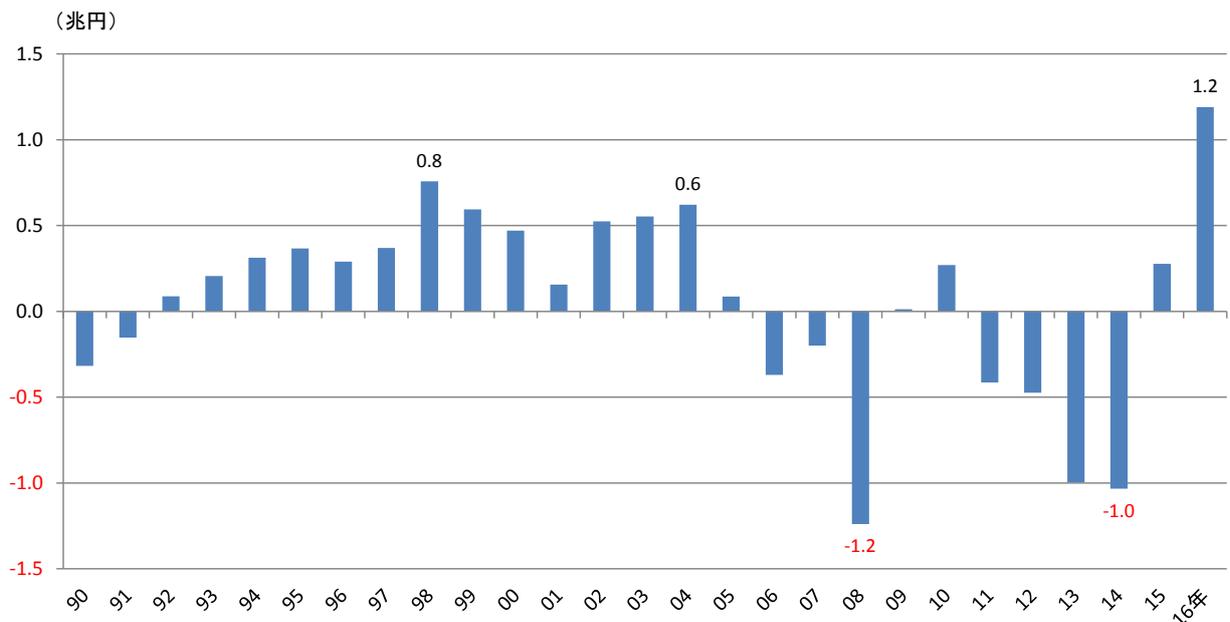
図表 1-2-5～6 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

- 2016年の九州の貿易収支は+1兆1,905億円です。2年連続の貿易黒字になった。(全国は6年ぶりに貿易黒字となった。)
- 品目別では、前年に比べて輸送用機器等の輸出超過額が増加した一方で、鉱物性燃料の輸入超過額の減少がさらに進んだことなどから、九州の貿易収支は前年を上回る大幅な貿易黒字となった。
- 国別の輸出超過額では、対米国が5,221億円、対韓国が4,826億円、対香港が2,643億円などとなっている。輸入超過額では、対オーストラリアが3,707億円、サウジアラビアが2,341億円、インドネシアが1,842億円などとなっている。

図表 1-2-7 全国の貿易収支と為替相場（円・米ドル）の推移

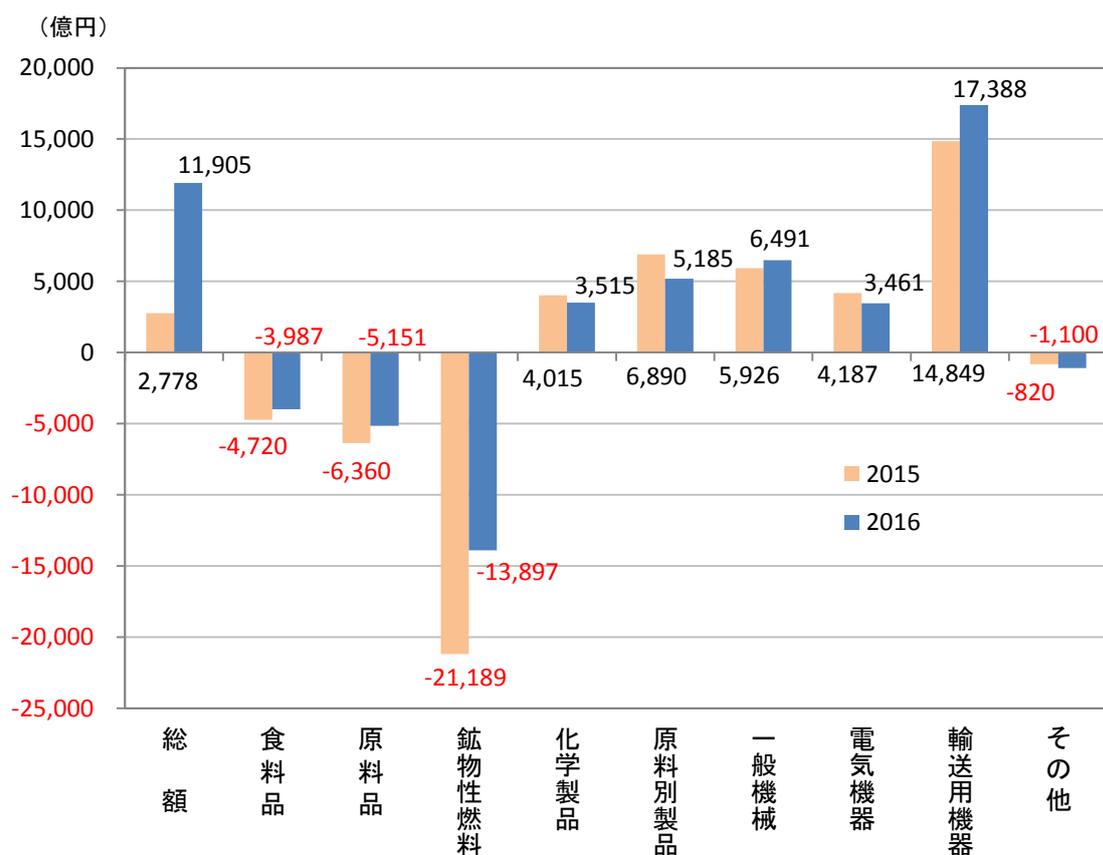


図表 1-2-8 九州の貿易収支の推移



図表 1-2-7～8 出所：財務省「貿易統計」、総務省統計局資料、内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

図表 1-2-9 九州の品目別貿易収支額（2015-2016年）



図表 1-2-10 九州の主な相手国・地域別貿易収支額（2016年）

(単位：億円)

相手国・地域	輸出超過額	相手国・地域	輸入超過額
米国	5,221	オーストラリア	▲ 3,707
韓国	4,826	サウジアラビア	▲ 2,341
香港	2,643	インドネシア	▲ 1,842
中国	1,790	ブラジル	▲ 1,080
シンガポール	1,608	ロシア	▲ 777
九州の貿易収支額(2016年) 1兆1,905億円			

図表 1-2-10 備考：九州の貿易収支額上位 5ヶ国と下位 5ヶ国を記載。

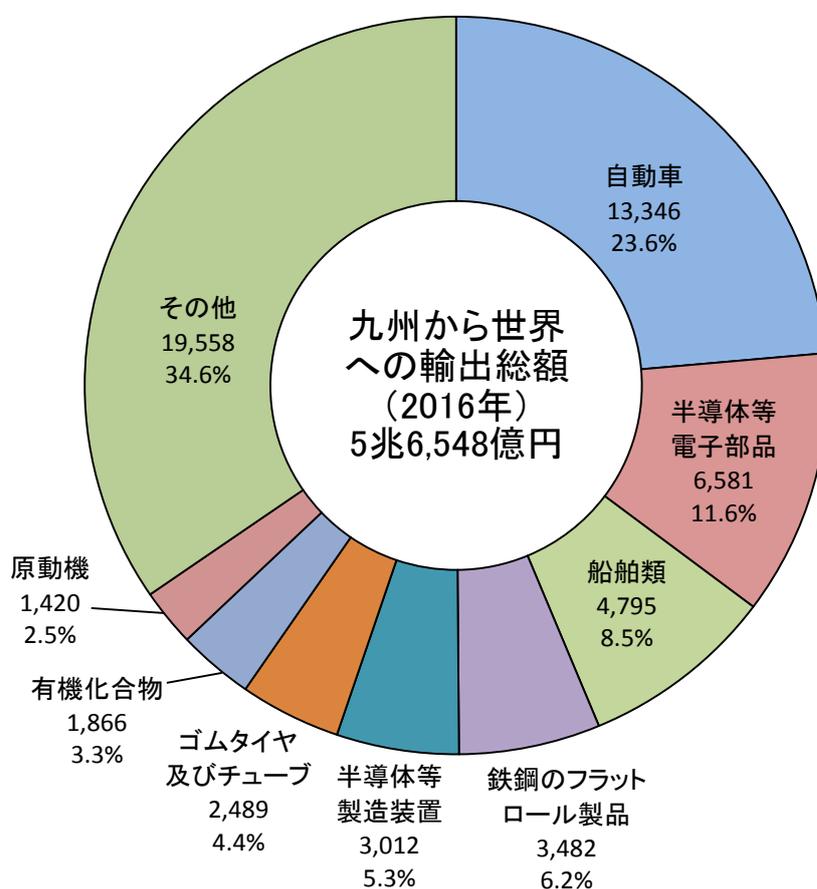
図表 1-2-9～10 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

2. 九州から世界への輸出動向

- 九州から世界への輸出品目は、輸出額が多い順に、自動車、半導体等電子部品、船舶類、鉄鋼のフラットロール製品、半導体等製造装置となり、この5品目で全体の5割超を占めた。
- 2016年の輸出額は、自動車（寄与度：+3.0%）や船舶類（同+1.5%）などが増加した一方、映像機器（同▲1.9%）や鉄鋼のフラットロール製品（同▲1.8%）、ゴムタイヤ及びチューブ（同▲1.0%）などは減少した。
- 2016年の九州の最大の輸出相手国は中国で、次いで米国、韓国などとなっている。2000年と比べると中国を始めとするアジアの割合が増加した一方、北米の割合が減少している。

図表 1-2-11 九州から世界への輸出品目

（単位：億円、%）



寄与度（増加分）：自動車（+3.0%）、船舶類（+1.5%） 等

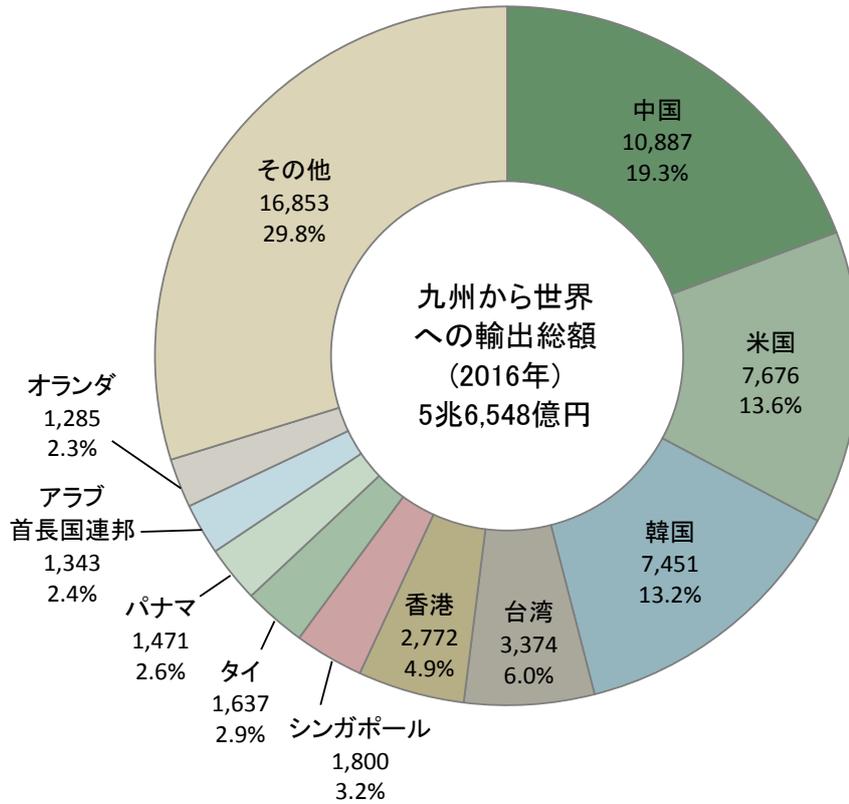
寄与度（減少分）：映像機器（▲1.9%）、鉄鋼のフラットロール製品（▲1.8%）、
ゴムタイヤ及びチューブ（▲1.0%） 等

（注）寄与度は、1.0%未満は記載省略。（以下同様）

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

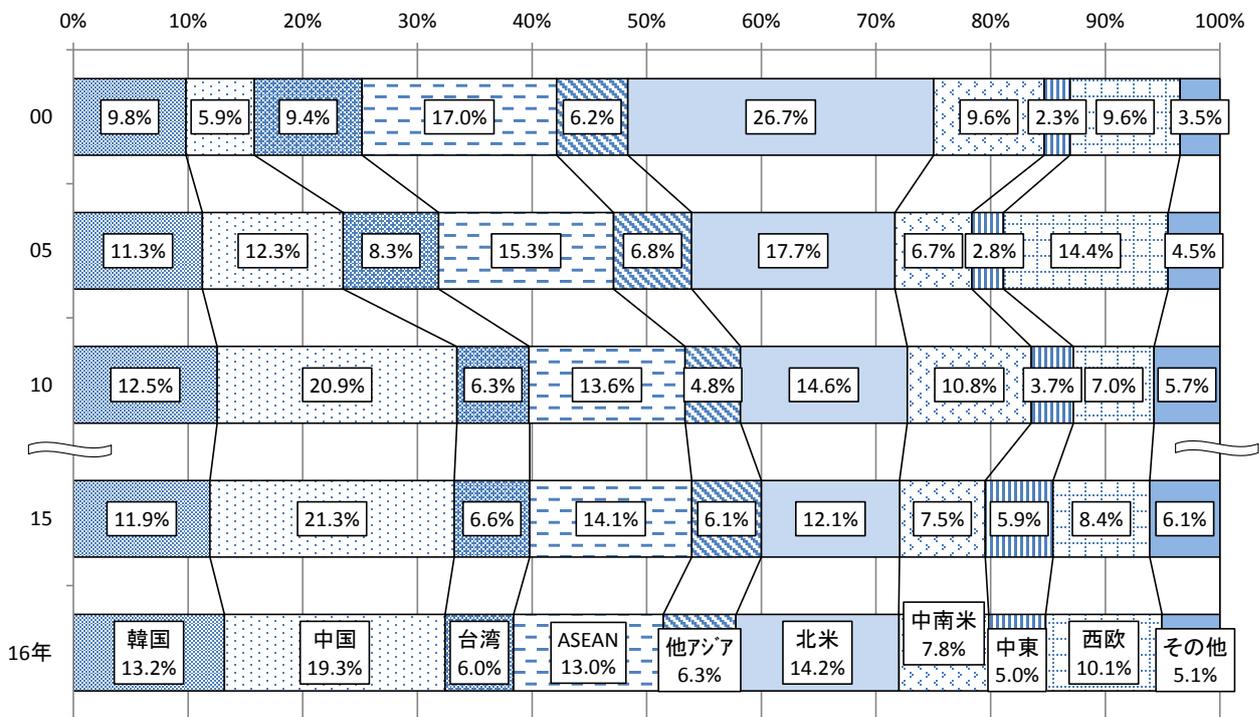
図表 1-2-12 九州の輸出相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）



図表 1-2-13 九州の輸出相手国・地域の推移

（単位：%）



図表 1-2-12～13 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 1-2-14 九州の全国比が高い輸出品目（2016年）

（単位：億円、％）

順位	輸出品目(小分類)	輸出額 (九州)	輸出額 (全国)	全国比
1	軌条及びその他の鉄道線路建設材	379	464	81.7%
2	木材	69	129	53.3%
3	ゴムタイヤ及びチューブ	2,489	5,290	47.0%
4	セメント	188	425	44.1%
5	船舶類	4,795	13,972	34.3%
6	抗生物質製剤	72	227	31.6%
7	コークス	53	169	31.2%
8	より線・綱及び綱類	58	284	20.4%
9	鉄鋼のフラットロール製品	3,482	17,668	19.7%
10	二輪自動車類	630	3,229	19.5%
11	織物用糸	220	1,164	18.9%
12	半導体等電子部品	6,581	36,072	18.2%
13	魚介類(生鮮)	268	1,521	17.6%
14	銅及び同合金	973	6,125	15.9%
15	半導体等製造装置	3,012	19,358	15.6%
16	貯蔵用及び輸送用の金属製容器	16	123	12.6%
17	映像機器	610	4,966	12.3%
18	有機合成染料及びレーキ顔料	59	486	12.1%
19	自動車	13,346	113,329	11.8%
20	抗生物質	38	326	11.5%
21	有機化合物	1,866	16,818	11.1%
22	鉄鋼のくず	274	2,518	10.9%
23	事務用機器	1,373	14,116	9.7%
24	無機化合物	352	3,898	9.0%
25	ポリエチレン	95	1,049	9.0%

備考：品目は2016年の九州の輸出額が10億円以上で、全国比が9.0%以上のものを掲載。

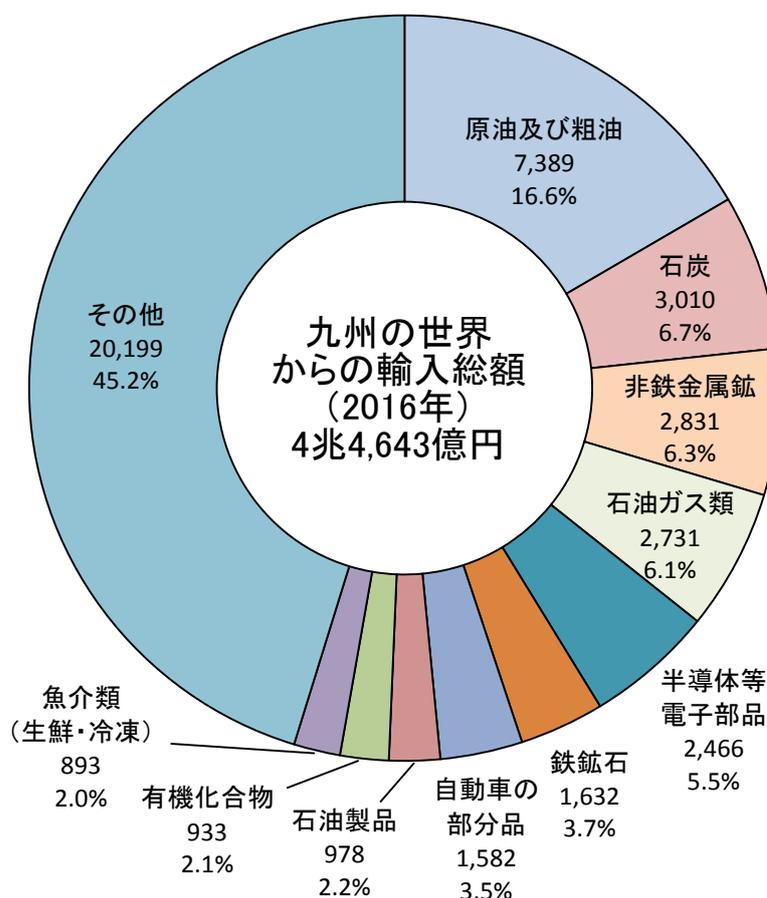
出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

3. 九州の世界からの輸入動向

- 九州の世界からの輸入品目は、原油及び粗油、石炭、非鉄金属鉱、石油ガス類などの鉱物性燃料や原料品が上位を占めている。
- 2016年の輸入額は、原油及び粗油（寄与度：▲7.9%）や石油ガス類（同▲3.2%）のほか、鉄鉱石、石油製品、石炭なども減少し、前年を大きく下回った。
- 2016年の九州の最大の輸入相手国は中国で、次いでオーストラリア、サウジアラビア、韓国、インドネシアなどとなっている。2000年と比べると、中国を始めとするアジアの割合が増加した一方、中東の割合が減少している。

図表 1-2-15 九州の世界からの輸入品目

（単位：億円、%）

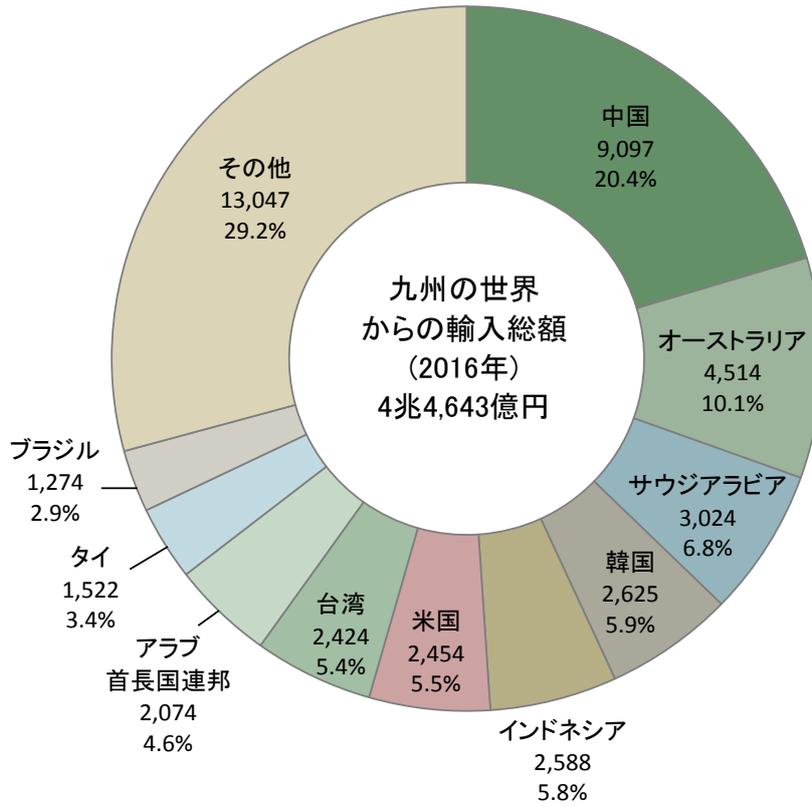


寄与度（減少分）：原油及び粗油（▲7.9%）、石油ガス類（▲3.2%）、鉄鉱石（▲1.5%）、石油製品（▲1.0%）、石炭（▲1.0%）等

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

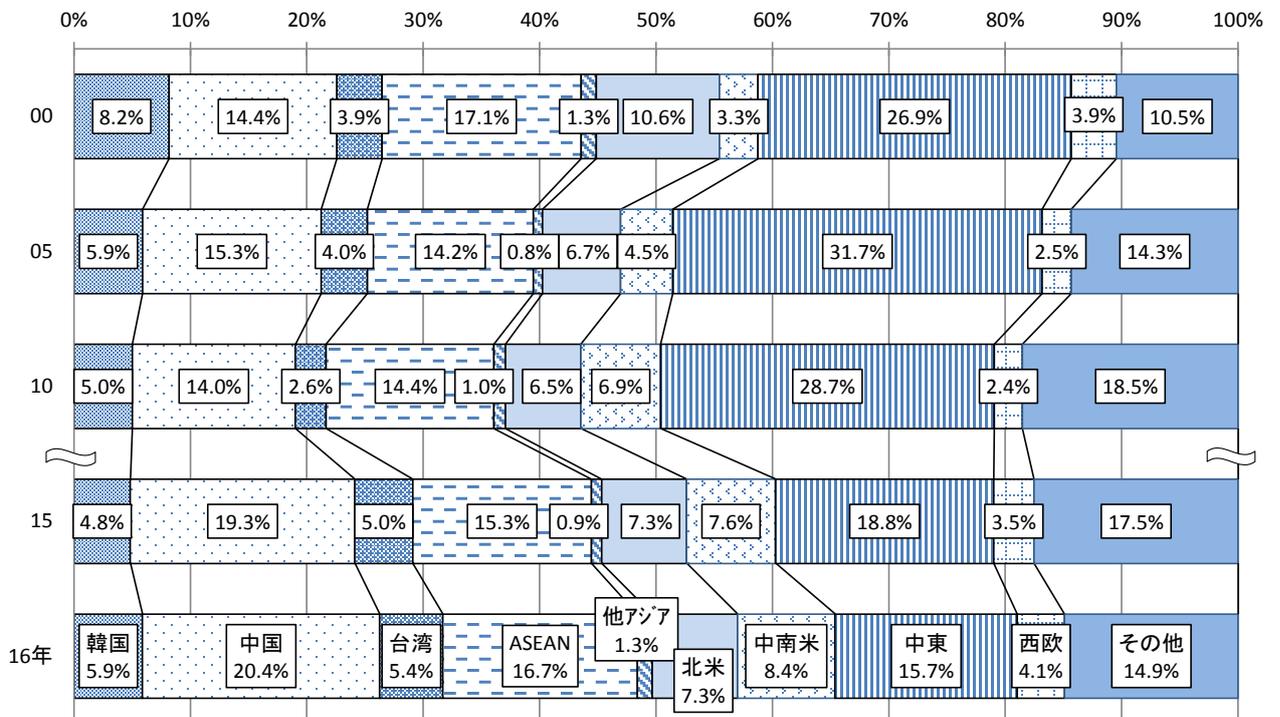
図表 1-2-16 九州の輸入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）



図表 1-2-17 九州の輸入相手国・地域の推移

（単位：%）



図表 1-2-16～17 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 1-2-18 九州の全国比が高い輸入品目（2016年）

（単位：億円、％）

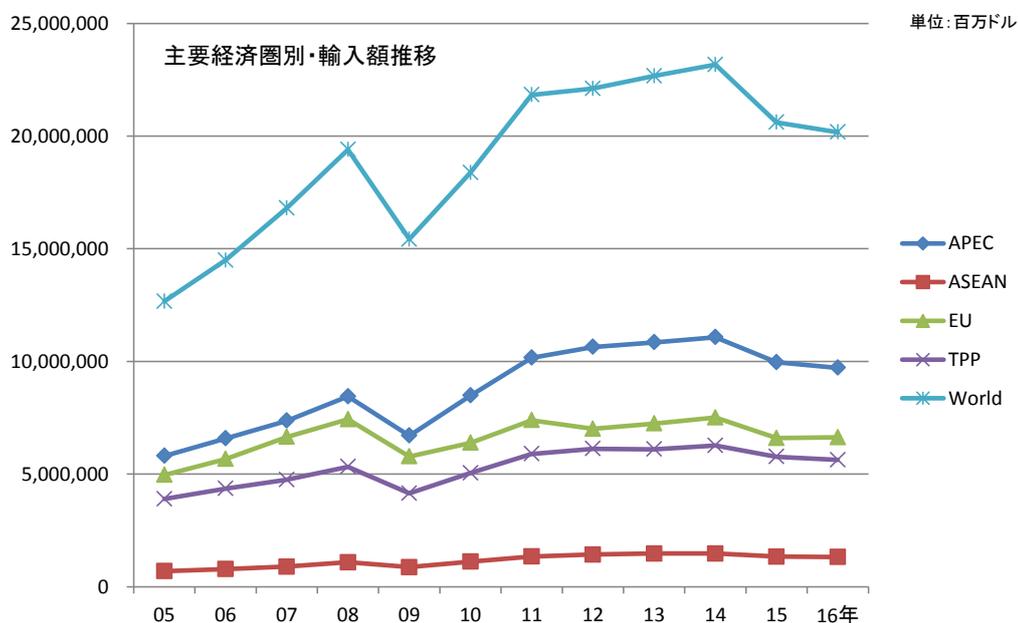
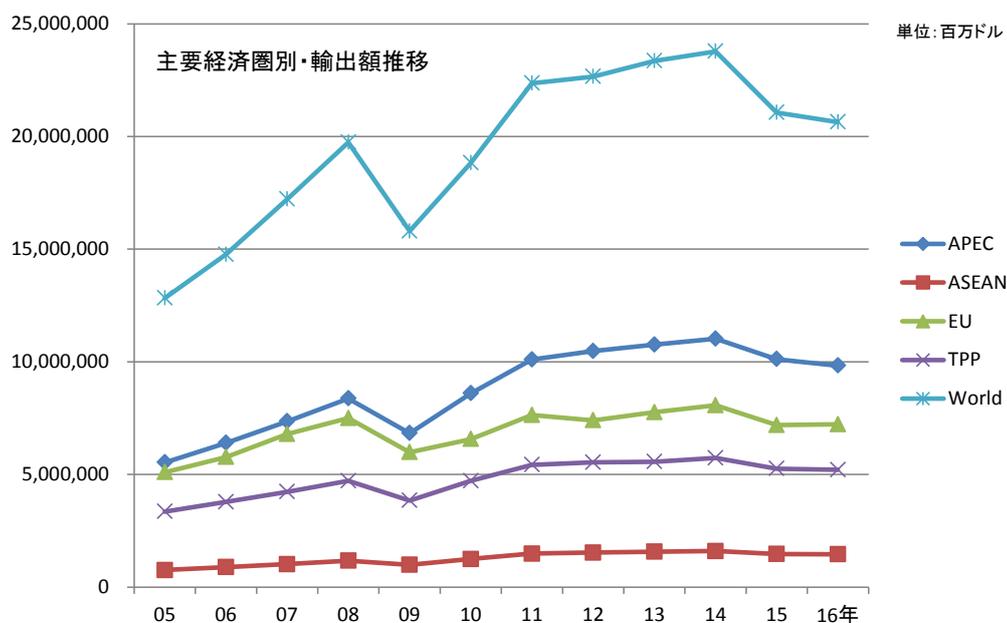
順位	輸入品目(小分類)	輸入額 (九州)	輸入額 (全国)	全国比
1	魚の粉及びミール	146	236	61.9%
2	こうりゃん(飼料用)	54	104	52.0%
3	天然ゴム	407	996	40.8%
4	大麦及びはだか麦	110	284	38.6%
5	植物性油かす	327	921	35.5%
6	米	124	478	25.9%
7	非鉄金属鉱	2,831	11,832	23.9%
8	とうもろこし	774	3,332	23.2%
9	馬	27	131	20.5%
10	鉄鉱石	1,632	8,014	20.4%
11	自動車の部分品	1,582	8,329	19.0%
12	石炭	3,010	16,652	18.1%
13	合金鉄	362	2,122	17.1%
14	すず及び同合金	81	486	16.7%
15	非鉄卑金属くず	234	1,445	16.2%
16	合成ゴム	61	398	15.4%
17	電気溶接器	36	242	14.8%
18	原油及び粗油	7,389	55,319	13.4%
19	綿花	20	152	13.3%
20	船舶類	115	880	13.0%
21	絶縁電線及び絶縁ケーブル	855	6,577	13.0%
22	砂糖	76	649	11.7%
23	鉄鋼のフラットロール製品	295	2,672	11.1%
24	鶏肉(生鮮・冷凍)	128	1,213	10.6%
25	ゴム加工材料	31	301	10.4%
26	鉄鋼製構造物及び同建設機材	198	1,939	10.2%
27	小麦及びメスリン	151	1,480	10.2%

備考：品目は2016年の九州の輸入額が10億円以上で、全国比が10.0%以上のものを掲載。

出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

【トピックス】主要経済圏別の輸出額・輸入額の推移について

- 世界の主要経済圏の輸出額・輸入額の推移を比較すると、増減の動きについては、概ね全世界の増減推移に連動している。今回、日 EU・EPA 交渉において大枠合意したが、EU の輸出額及び輸入額は、世界シェアの 3 割強で推移している。



輸出	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16年
EU・世界シェア	39.1%	39.4%	38.0%	37.9%	34.9%	34.1%	32.7%	33.2%	33.9%	34.1%	35.0%
輸入	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16年
EU・世界シェア	39.1%	39.6%	38.3%	37.5%	34.7%	33.8%	31.7%	32.0%	32.4%	32.0%	32.9%

出所：UNCTAD, UNCTAD stat データより九州経済産業局作成。

第3章 九州の対外投資・対内投資

1. 九州の対外投資

- 2016年までの九州企業の海外進出累計件数は、994件となっている。このうち2016年の新規海外進出件数は15件で、前年比53.1%減（17件減）となっている。全国の2016年時点の海外進出累計件数は29,904件で、うち新規海外進出件数は779件である。
- 九州企業の海外進出について、進出先別の累計件数ではアジアが771件と8割弱を占めており、中でも中国（359件）やASEAN（237件）への進出が多い。全国では進出件数に占めるアジアの割合が6割強となっており、九州は全国に比べて進出件数に占めるアジアの割合が高い。
- 新規進出件数では、2011年頃までは中国が最も多かったが、近年ではASEANが中国を上回っており、2016年も全体の半数近くがASEANへの進出だった。
- 進出年別では、2004年（56件）をピークとしてその後は若干減少傾向にあるものの、毎年30～40件台の新規進出が続いていたが、2016年は前年の半数以下と大きく減少した。
- 進出企業を県別にみると、福岡県が約7割と最も多く、以下長崎県、熊本県が続いている。
- 進出形態別にみると、「単独」が4割弱を占め、以下「支店・事務所」、「合併」が続いている。
- 進出業種別にみると、「運輸」が16.4%を占め、以下「小売・卸売」、「生産用機械器具」が続いている。

図表 1-3-1 九州企業の国・地域別海外進出状況

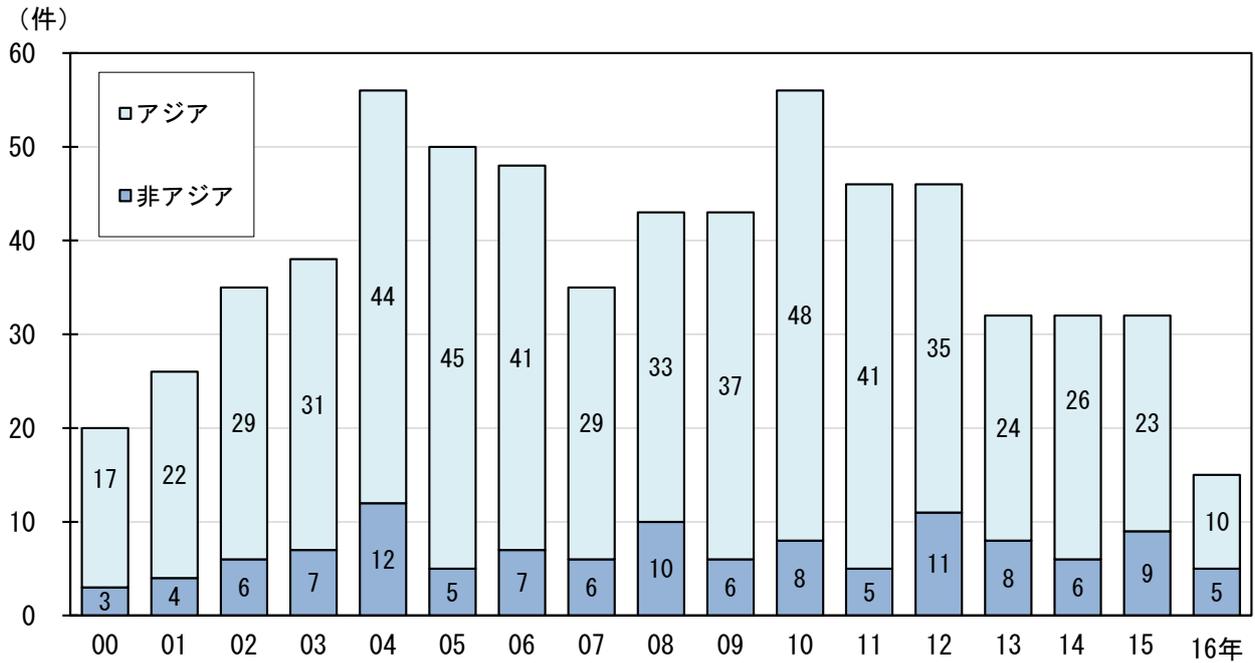
（単位：件、％）

	九州														九州計	全国	
	11年		12年		13年		14年		15年		16年		不明	2016年時点			
	件	構成比(%)		掲載ベース		構成比(%)											
世界合計	46	100.0	46	100.0	32	100.0	32	100.0	32	100.0	15	100.0	41	994	29,904	100.0	
アジア	41	89.1	35	76.1	24	75.0	26	81.3	23	71.9	10	66.7	27	771	18,719	62.6	
中国	20	43.5	12	26.1	5	15.6	6	18.8	2	6.3	-	-	9	359	6,774	22.7	
韓国	2	4.3	2	4.3	2	6.3	2	6.3	-	-	-	-	2	47	931	3.1	
香港	4	8.7	2	4.3	3	9.4	1	3.1	-	-	-	-	1	39	1,282	4.3	
台湾	4	8.7	2	4.3	3	9.4	4	12.5	2	6.3	2	13.3	6	60	1,071	3.6	
ASEAN	7	15.2	15	32.6	9	28.1	13	40.6	16	50.0	8	53.3	8	237	7,736	25.9	
インド	4	8.7	1	2.2	2	6.3	-	-	1	3.1	-	-	1	24	808	2.7	
その他アジア	-	-	1	2.2	-	-	-	-	2	6.3	-	-	-	5	117	0.4	
EU	-	-	5	10.9	1	3.1	2	6.3	-	-	3	20.0	7	70	3,927	13.1	
ロシア	-	-	1	2.2	1	3.1	-	-	-	-	-	-	1	4	192	0.6	
米国	4	8.7	-	-	1	3.1	3	9.4	7	21.9	1	6.7	4	103	3,830	12.8	
オーストラリア	-	-	-	-	1	3.1	-	-	-	-	1	6.7	1	6	584	2.0	
その他	1	2.2	5	10.9	4	12.5	1	3.1	2	6.3	-	-	1	40	2,652	8.9	

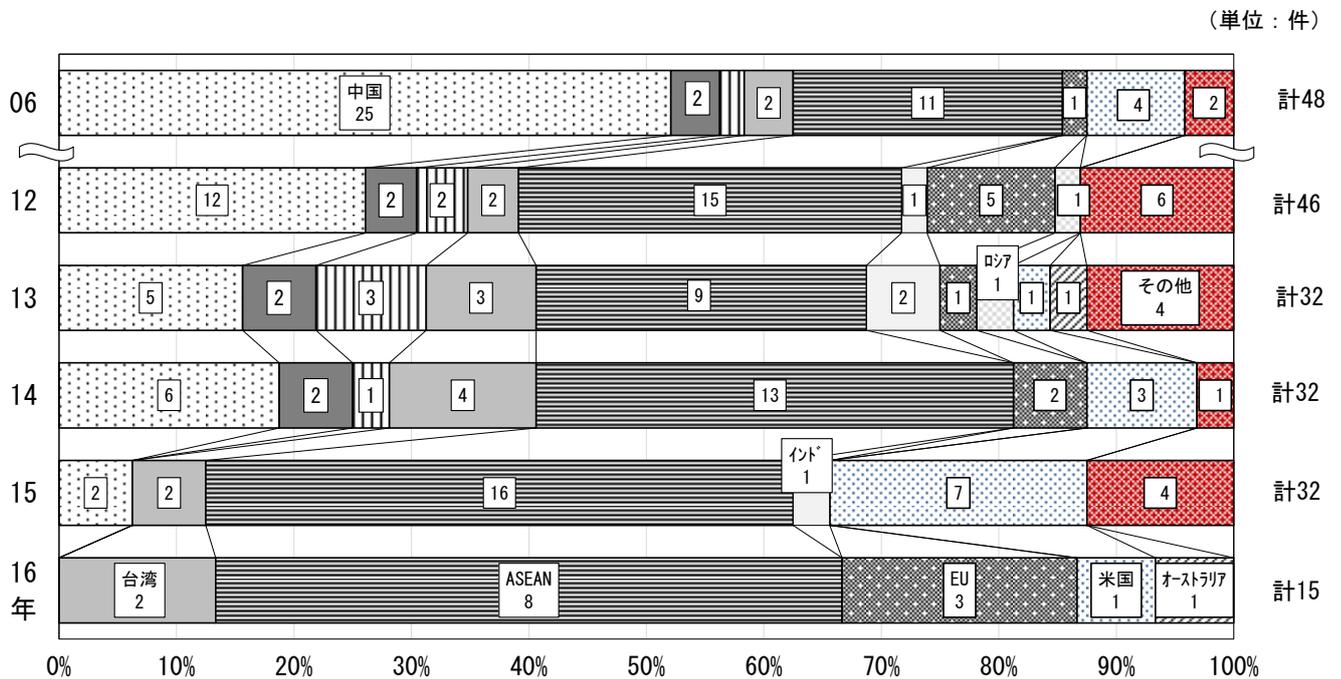
備考：「九州計」には年次不明分も含んだ累計件数を記載。

出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出2016」、東洋経済新報社「海外進出企業総覧2017（国別編）」より九州経済産業局作成。

図表 1-3-2 九州企業による海外進出の年次別進出件数



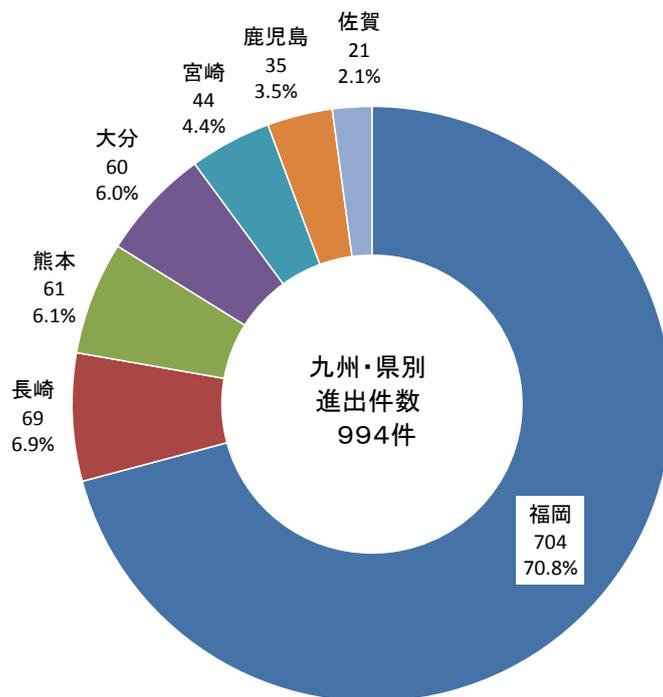
図表 1-3-3 九州企業の海外進出先の推移



図表 1-3-2～3 出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

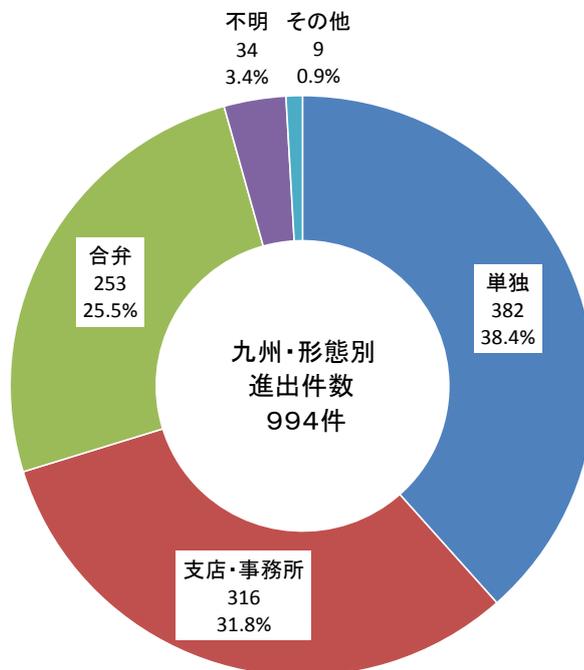
図表 1-3-4 九州各県の海外進出企業件数（2016 年累計）

（単位：件、％）



図表 1-3-5 九州企業の形態別海外進出件数（2016 年累計）

（単位：件、％）



図表 1-3-5 備考：「单独」は 100%現地法人、「合併」は現地企業との共同出資、「支店」は支社・支店、「事務所」は駐在員事務所・連絡所等が対象。

図表 1-3-4～5 出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口地場企業の海外進出 2016」より九州経済産業局作成。

2. 九州の対内投資

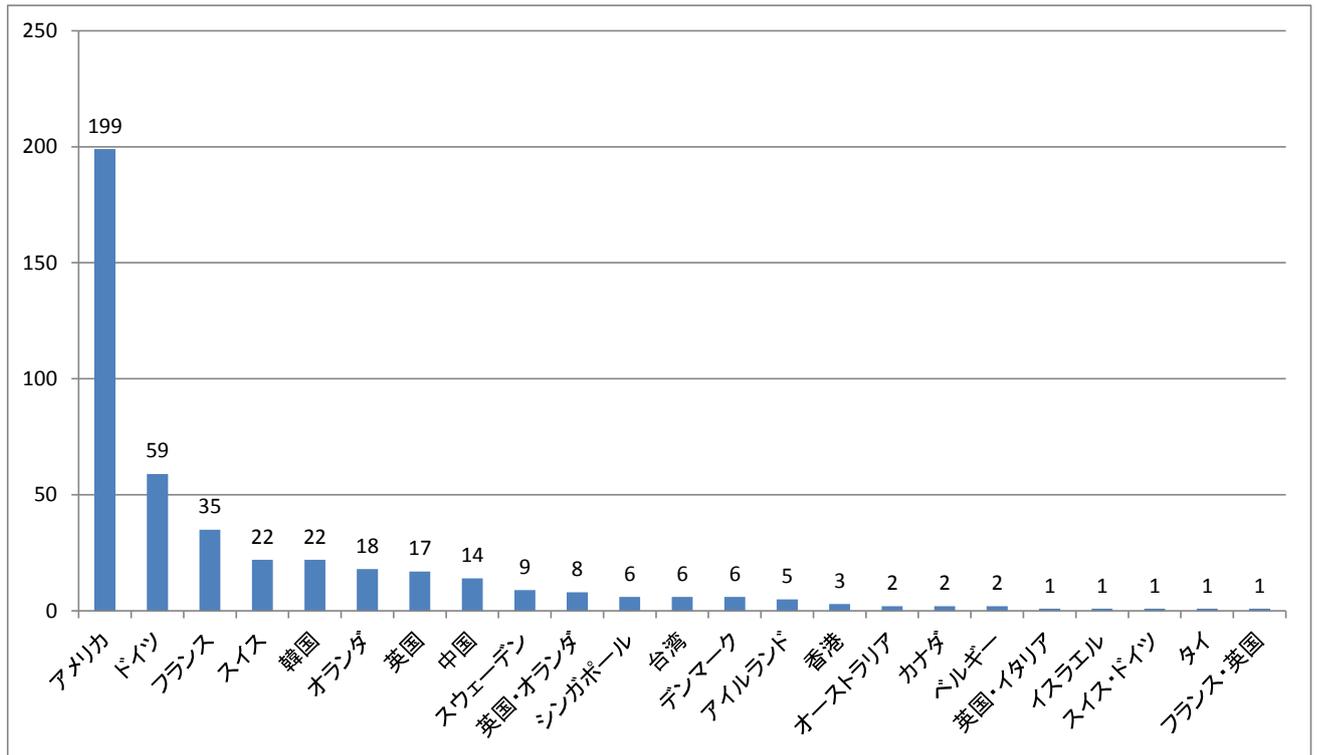
- 外資系企業の対九州投資は増加傾向にあり、2010年以降の進出件数は15件となっている。
- 九州の主な外資系企業（支店等含む）の国籍別では、米国199社、ドイツ59社、フランス35社、スイス22社、韓国22社の順に多い。
- 進出企業の親企業を業種別にみると、製造業、卸売業、金融業、サービス業など多岐にわたる。
- 外資系企業（支店等含む）の九州への進出企業数は、2014年時点で440社で、県別にみると、福岡県が303社と最も多く、次いで熊本県、鹿児島県となっている。
- 全国の外資系企業（本社ベース）の地域別企業数では、関東(2,871社)がシェア84.2%と圧倒的に多く、九州(46社)はシェア1.3%。（注：件数は、調査の有効回答数からの集計）
- 業種別の割合では、非製造業が81.6%、製造業が18.4%と非製造業が多くなっている。
- 外資系企業（本社ベース）の九州への進出企業数は46社で、福岡県が30社（65.2%）と6割強を占め、次いで宮崎県の5社（10.9%）となっている。
- 九州の業種別の割合では、非製造業が80.4%、製造業が19.6%と全国と同様の傾向であった。

図表 1-3-7 九州の主な外資系企業（支店・営業所含む）（2010年以降進出分）

県	設立年 (外資受入)	親企業の国籍	九州の拠点	主要製品・サービス
福岡県	2010	韓国	本社	スポーツ用品等の企画・製造・インターネット通販
福岡県	2010	アメリカ	支店	投資運用業務
福岡県	2010	アメリカ	営業所	資産運用業務
福岡県	2010	韓国	本社	半導体やロボットなどについての研究・開発
福岡県	2011	韓国	支店	ケーブルテレビ受信機等製造販売
福岡県	2011	デンマーク	営業所	医療機器輸入販売
福岡県	2012	アメリカ	オフィス	GISソフトウェアの輸出入、販売、開発、及び関連サービス（保守、トレーニング、コンサルティング、出版等）の提供
福岡県	2012	アメリカ	オフィス	測量機器の製造・販売
福岡県	2012	韓国	支店	太陽光発電モジュールの輸入販売
福岡県	2012	スイス	サービスステーション	製粉等食品加工設備
佐賀県	2012	アメリカ	フルフィルメントセンター	オンラインストアの運営サポート
福岡県	2013	オランダ	支店	国際航空旅客
福岡県	2013	イギリス・オランダ	営業所	グリース、熱処理油、防錆油、工作油剤、洗浄油、潤滑油、粘度計校正用標準液などの製造及び販売
大分県	2013	アメリカ	パッケージングセンター	半導体のパッケージング技術開発
福岡県	2014	中国	本社	クラウドマーケティングシステムの提供

出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口の外資系企業2015」より九州経済産業局作成。

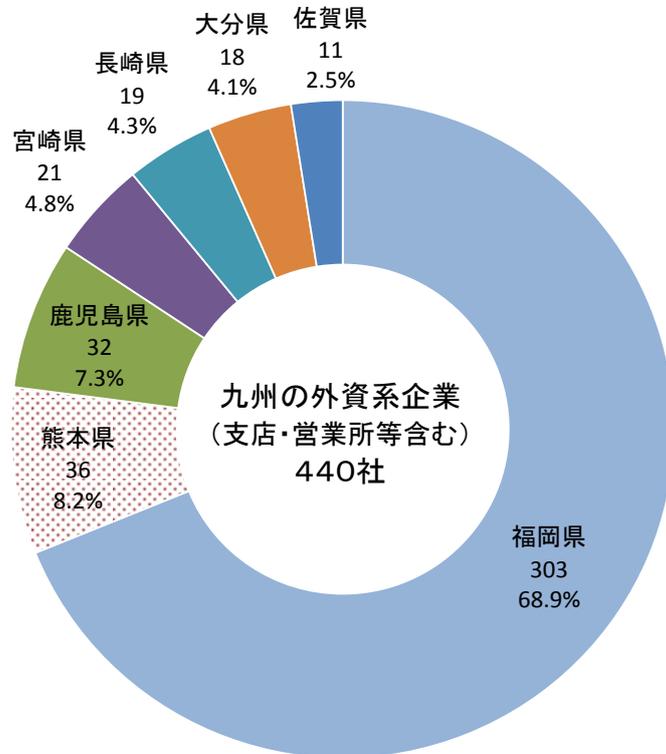
図表 1-3-8 九州の外資系企業の国籍別企業数（2014年時点）



出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口の外資系企業 2015」より九州経済産業局作成。

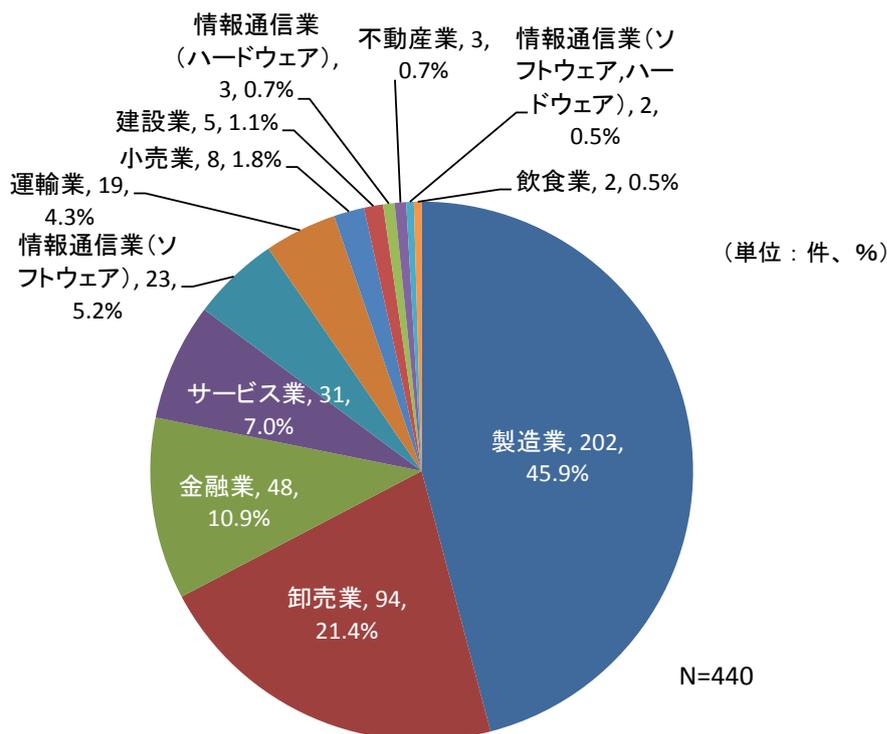
図表 1-3-9 九州の外資系企業（支店・営業所等含む）の県別企業数（2014年時点）

（単位：件、%）



出所：（公財）九州経済調査協会「九州・山口の外資系企業 2015」より九州経済産業局作成。

図表 1-3-10 九州の外資系企業（支店・営業所等含む）の業種別企業数（2014年時点）



出所：(公財)九州経済調査協会「九州・山口の外資系企業 2015」より九州経済産業局作成。

【トピックス】外資系企業が日本で事業展開する上での魅力と阻害要因

グローバル化の進展とともに、我が国においても外資系企業の参入が増えてきていますが、こうした外資系企業は日本の市場やビジネス環境の何に魅力を感じ、また何が阻害要因となっているのでしょうか。経済産業省「外資系企業動向調査（2016年調査）」より、これらの魅力と阻害要因について、それぞれ上位5位まで下表にまとめました。

【日本で事業展開する上での魅力】

第1位	所得水準が高く、製品・サービスの顧客ボリュームが大きい	62.9%
第2位	インフラ(交通、エネルギー、情報通信等)が充実している	47.8%
第3位	製品・サービスの付加価値や流行に敏感であり、新製品・新サービスに対する競争力が検証できる	47.4%
第4位	グローバル企業や関連企業が集積している	35.7%
第5位	生活環境が整備されている	31.0%

(複数回答 N=2858)

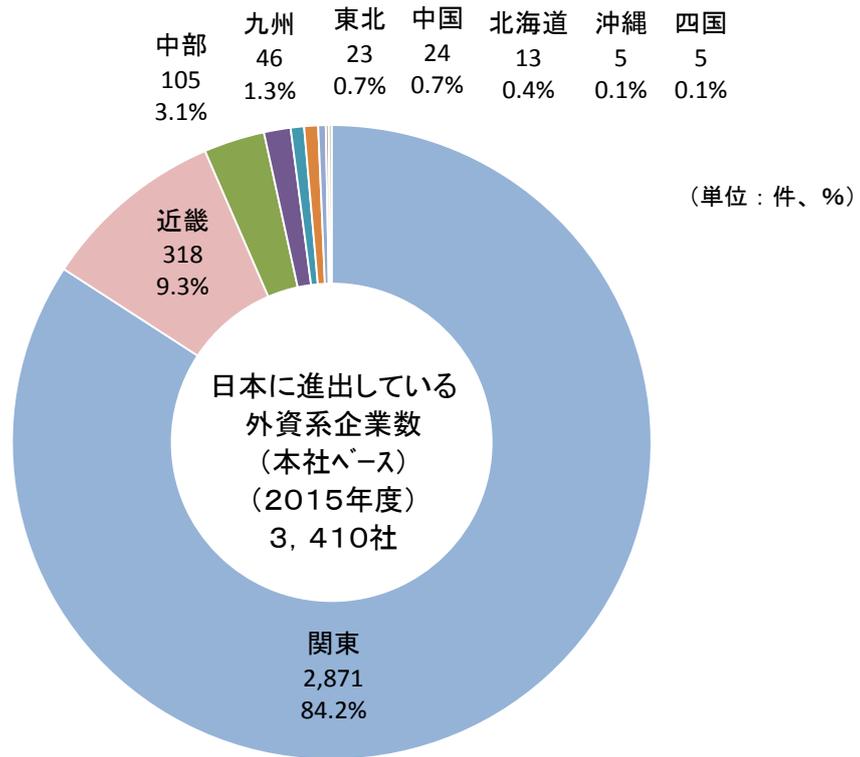
【日本で事業展開する上での阻害要因】

第1位	ビジネスコストの高さ	74.6%
第2位	日本市場の閉鎖性、特殊性	46.6%
第3位	人材確保の難しさ (管理職、技術者、語学堪能者、一般労働者等)	45.7%
第4位	製品・サービスに対するユーザーの要求水準の高さ	44.4%
第5位	規制・許認可制度の厳しさ	32.1%

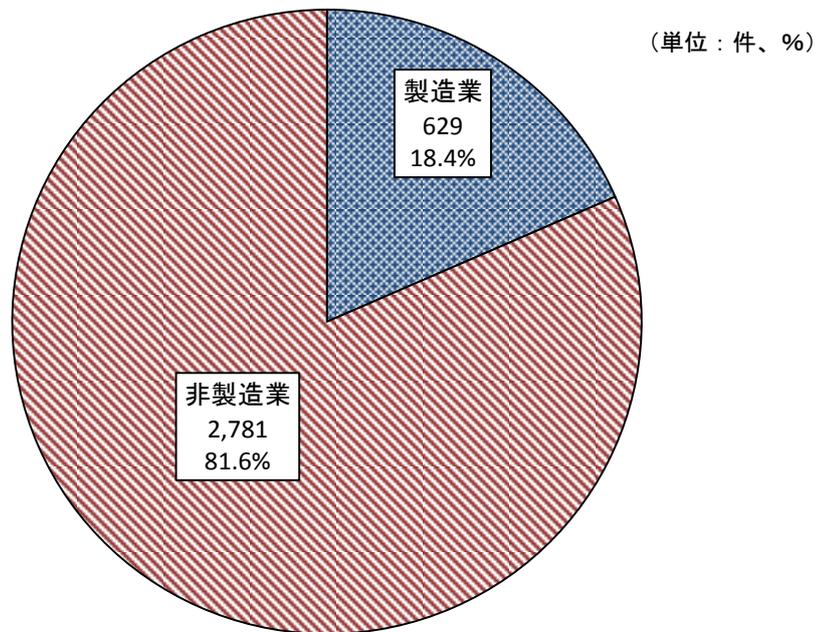
(複数回答 N=2856)

出所：経済産業省「2016年外資系企業動向調査」

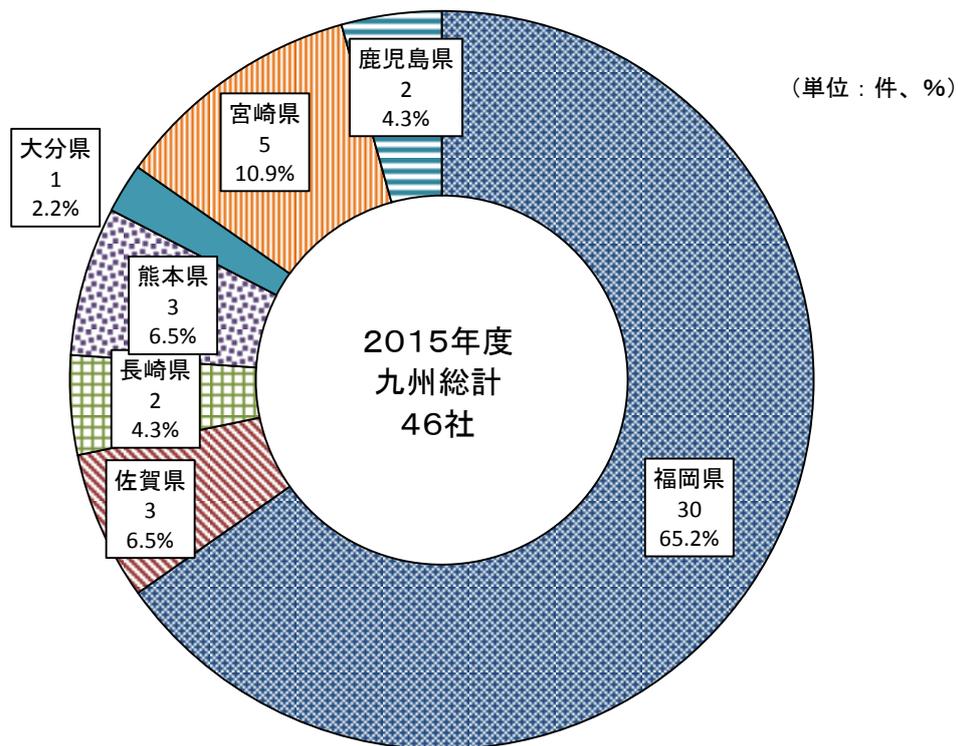
図表 1-3-11 全国の外資系企業（本社ベース）の地域別企業数（2015 年度）



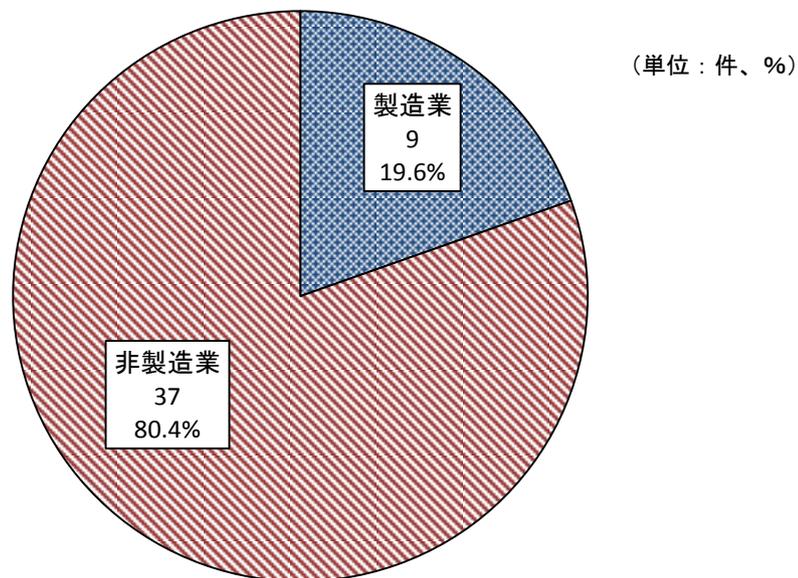
図表 1-3-12 全国の外資系企業（本社ベース）の業種別企業数（2015 年度）



図表 1-3-13 九州の外資系企業（本社ベース）の県別企業数（2015 年度）

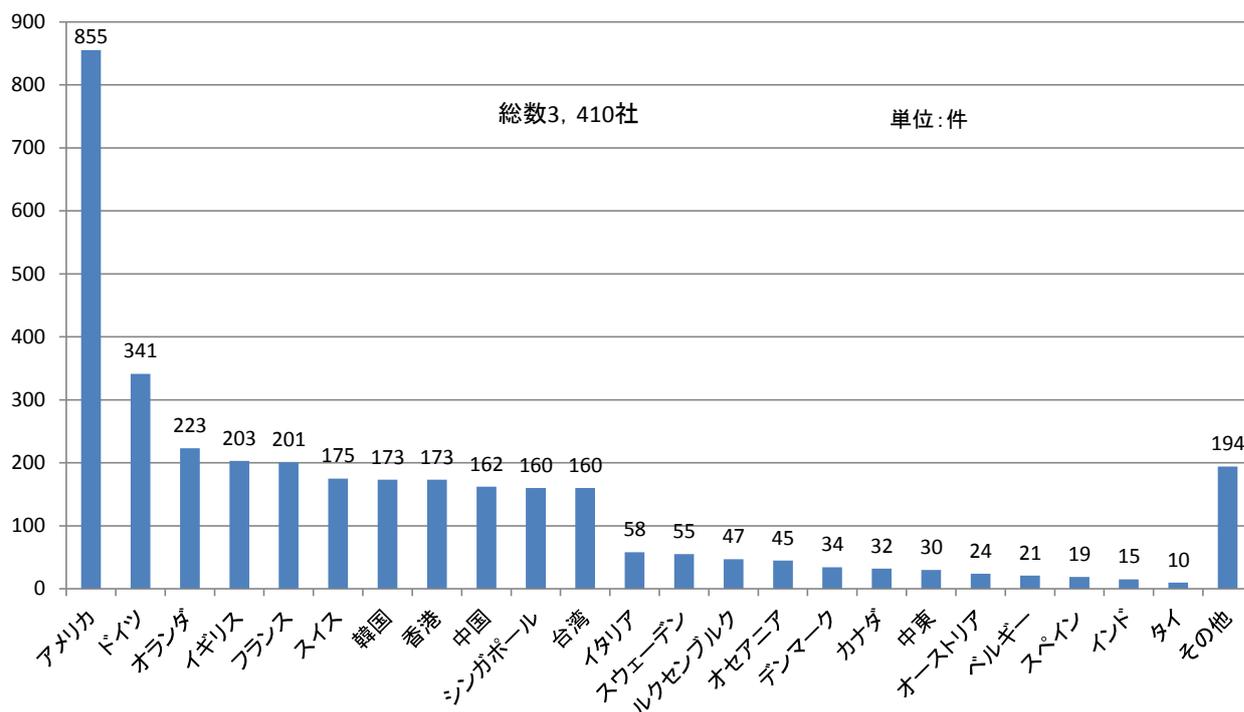


図表 1-3-14 九州の外資系企業（本社ベース）の業種別企業数（2015 年度）

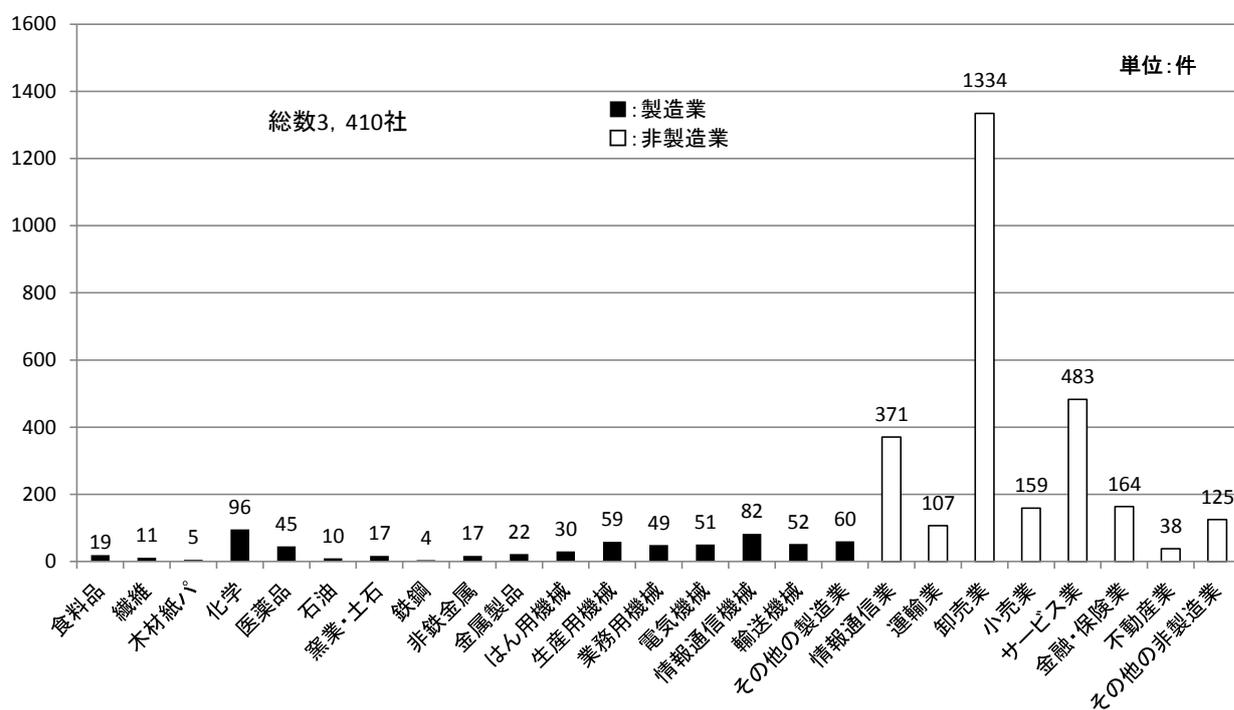


図表 1-3-11~14 出所：経済産業省「2016 年外資系企業動向調査」（2015 年度実績）より、九州経済産業局作成。

図表 1-3-15 全国の外資系企業（本社ベース）の国籍別企業数（2015 年度）



図表 1-3-16 全国の外資系企業（本社ベース）の産業別企業数（2015 年度）



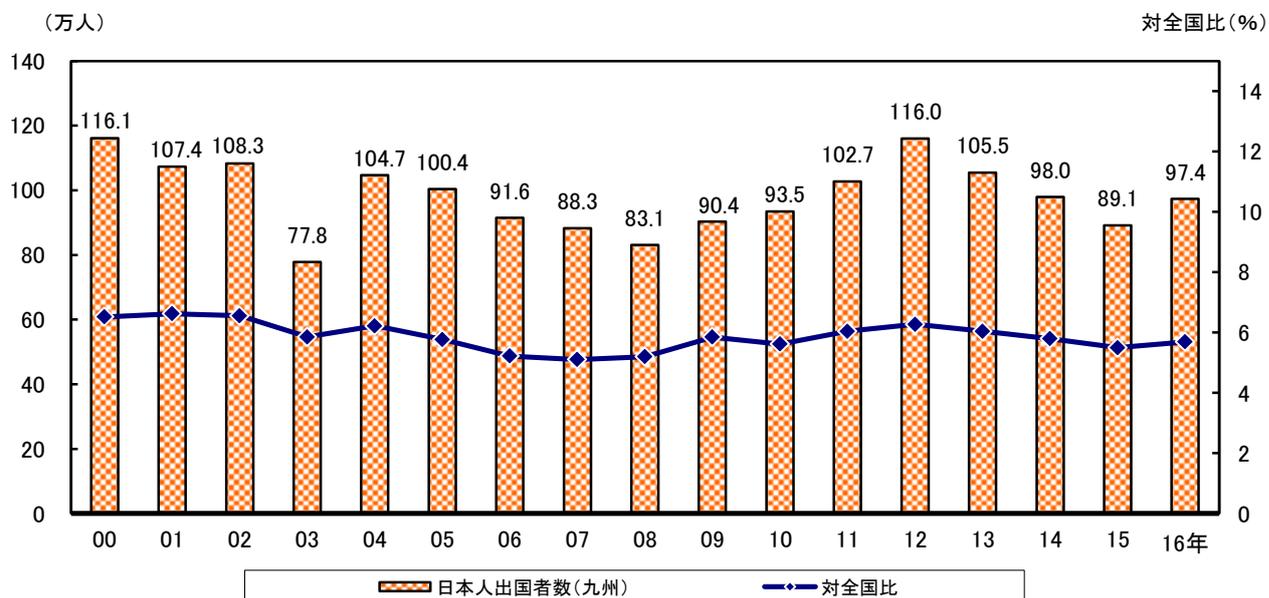
図表 1-3-15~16 出所：経済産業省「2016 年外資系企業動向調査」（2015 年度実績）より、九州経済産業局作成。

第4章 九州の海外との人的交流

1. 出入国者の状況

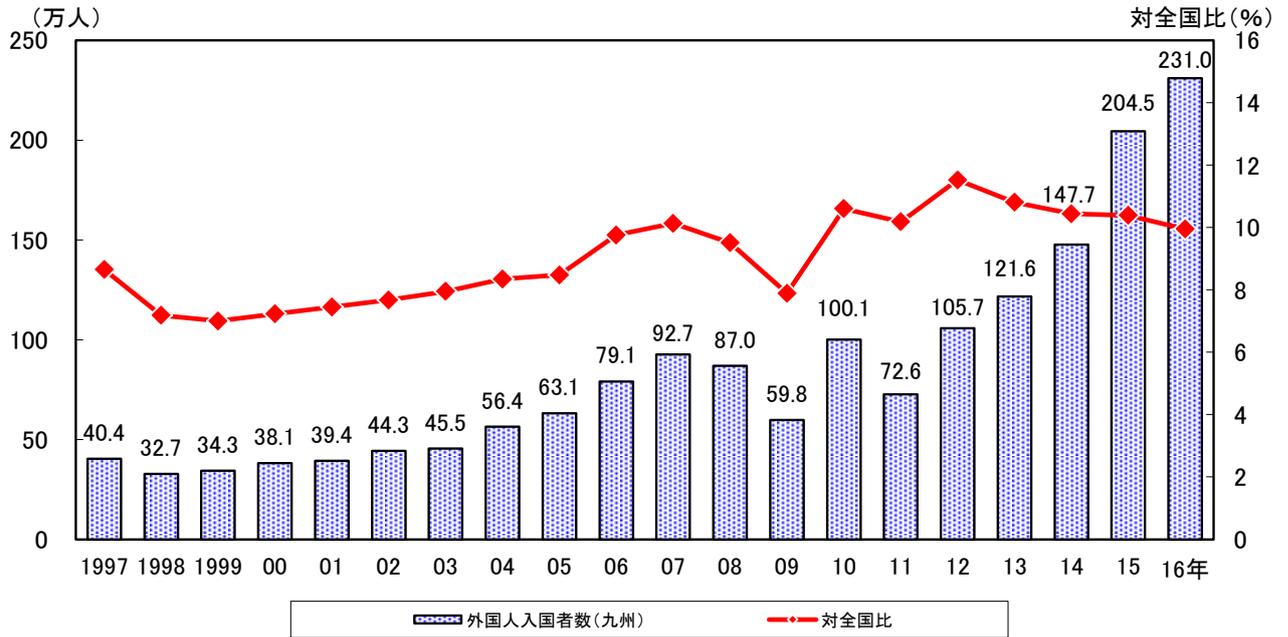
- 2016年に九州から出国した日本人数は97.4万人（前年比9.2%増）で前年を上回った。
- 2016年に九州へ入国した外国人数は231.0万人（前年比12.9%増）と前年から増加し、過去最高を更新し続けている。国籍別では、韓国が60.1%と最も多く、次いで台湾（12.9%）、中国（8.4%）等となっている。九州は全国に比べてアジアからの入国者数の割合が高く、特に韓国については、全体の約4分の1が九州へ入国している。
- 九州への外国クルーズ船の寄港数については、近年増加傾向にあり、2016年は九州全体で715回と、前年の約5割増となった。特に増加が目立つ博多港は、2016年のクルーズ船の寄港数が前年引き続き全国第1位（第2位は長崎港）となった。
- 2016年の九州の外国人延べ宿泊者数は518万人で、前年比2.9%と小幅に増加した。国籍別では韓国が37.0%と最も多く、次いで中国（12.4%）、香港（12.1%）等となっている。県別の延べ宿泊者数では、福岡県が48.4%と最も多く、次いで大分県（13.7%）、長崎県（11.0%）等となっている。

図表 1-4-1 九州から出国した日本人数及び全国比の推移

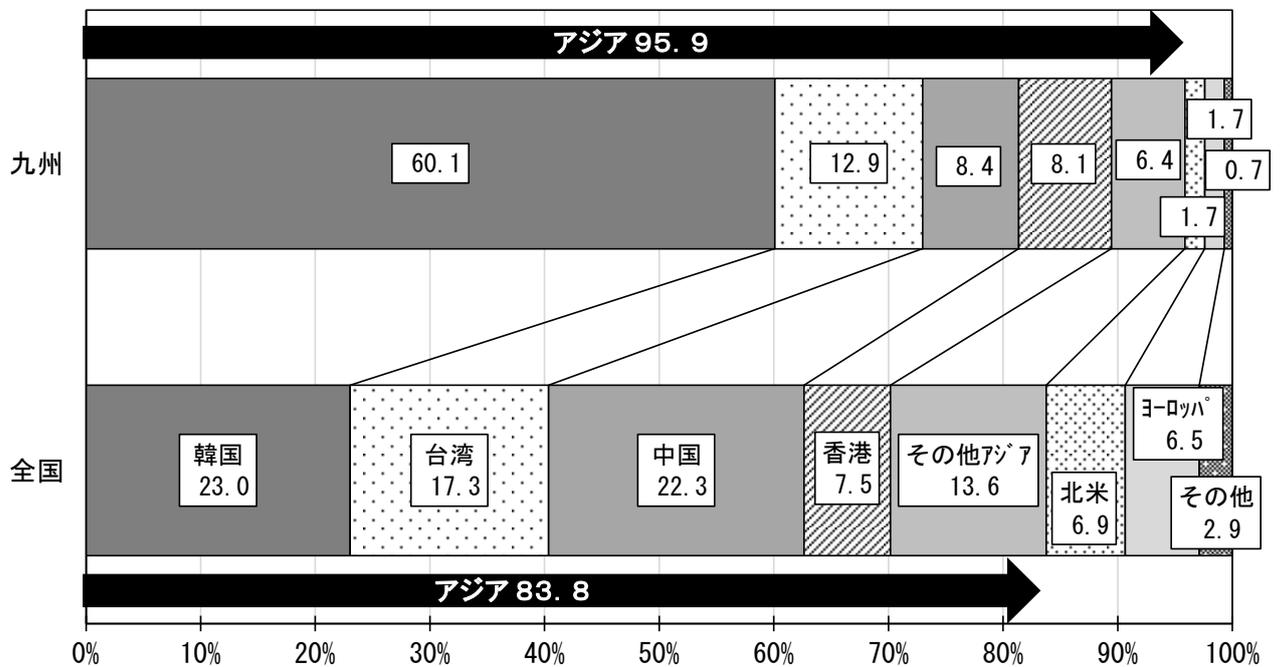


出所：法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-2 九州へ入国した外国人人数及び全国比の推移



図表 1-4-3 九州と全国の外国人入国者数の構成比 (2016年)



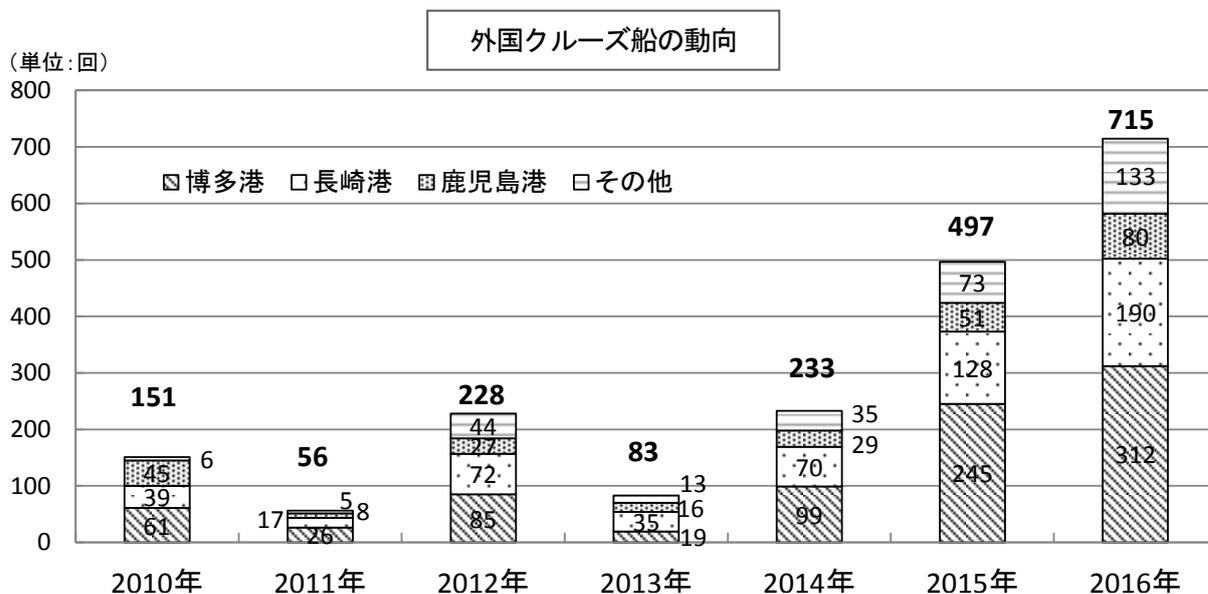
図表 1-4-4 九州と全国の外国人入国者数の動向（2016年）

（単位：人）

	九州					全国					
	2016年 入国者数	構成比 (%)	伸び率 (%)	全国比 (%)	2015年 入国者数	構成比 (%)	2016年 入国者数	構成比 (%)	伸び率 (%)	2015年 入国者数	構成比 (%)
総数	2,309,519	100.0	12.9	9.9	2,045,117	100.0	23,218,912	100.0	17.9	19,688,247	100.0
アジア	2,214,404	95.9	12.8	11.4	1,962,587	96.0	19,451,400	83.8	18.3	16,446,943	83.5
韓国	1,388,094	60.1	14.2	25.9	1,215,372	59.4	5,351,093	23.0	25.8	4,252,389	21.6
中国	193,509	8.4	1.1	3.7	191,397	9.4	5,172,945	22.3	15.0	4,497,238	22.8
台湾	297,748	12.9	6.9	7.4	278,618	13.6	4,019,879	17.3	12.4	3,576,210	18.2
香港	186,872	8.1	31.8	10.7	141,789	6.9	1,749,157	7.5	18.7	1,473,141	7.5
ベトナム	16,290	0.7	30.8	6.6	12,454	0.6	246,484	1.1	24.9	197,270	1.0
タイ	51,149	2.2	-15.9	5.5	60,849	3.0	926,688	4.0	12.7	822,037	4.2
フィリピン	25,116	1.1	62.0	5.3	15,500	0.8	474,685	2.0	22.1	388,896	2.0
インドネシア	4,774	0.2	7.3	1.7	4,448	0.2	275,524	1.2	30.9	210,412	1.1
インド	3,011	0.1	37.1	2.4	2,196	0.1	127,093	0.5	17.0	108,635	0.6
マレーシア	8,036	0.3	10.0	2.0	7,306	0.4	395,443	1.7	27.9	309,168	1.6
その他のアジア	39,805	1.7	21.9	5.6	32,658	1.6	712,409	3.1	16.5	611,547	3.1
ヨーロッパ	39,315	1.7	13.0	2.6	34,778	1.7	1,499,826	6.5	14.2	1,312,880	6.7
アフリカ	829	0.0	-4.7	2.2	870	0.0	37,924	0.2	5.3	36,005	0.2
北米	39,735	1.7	19.1	2.5	33,365	1.6	1,600,874	6.9	19.2	1,343,018	6.8
アメリカ	28,628	1.2	22.6	2.3	23,346	1.1	1,270,523	5.5	19.6	1,062,716	5.4
その他北米	11,107	0.5	10.9	3.4	10,019	0.5	330,351	1.4	17.9	280,302	1.4
南米	834	0.0	0.0	0.7	834	0.0	124,544	0.5	7.7	115,609	0.6
オセアニア	14,290	0.6	13.0	2.8	12,643	0.6	503,144	2.2	16.2	432,825	2.2
オーストラリア	12,163	0.5	12.6	2.8	10,802	0.5	441,863	1.9	16.8	378,196	1.9
その他オセアニア	2,127	0.1	15.5	3.5	1,841	0.1	61,281	0.3	12.2	54,629	0.3
無国籍	112	0.005	180.0	9.3	40	0.002	1,200	0.01	24.1	967	0.00

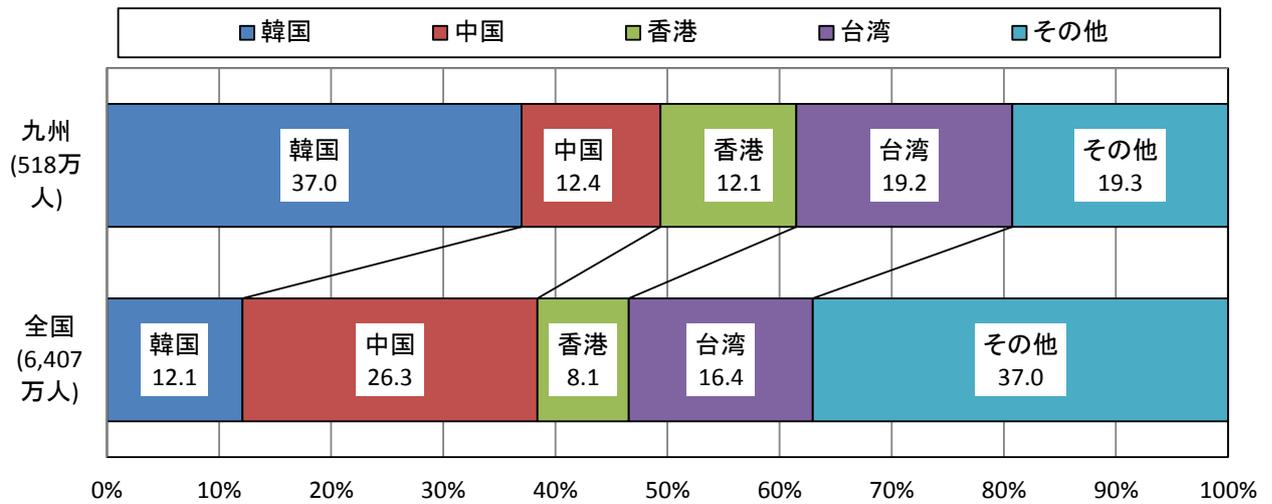
備考：クルーズ船による「船舶観光上陸」（出入国管理及び難民認定法第14条の2）は含まない。

図表 1-4-2～4 出所：法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成。



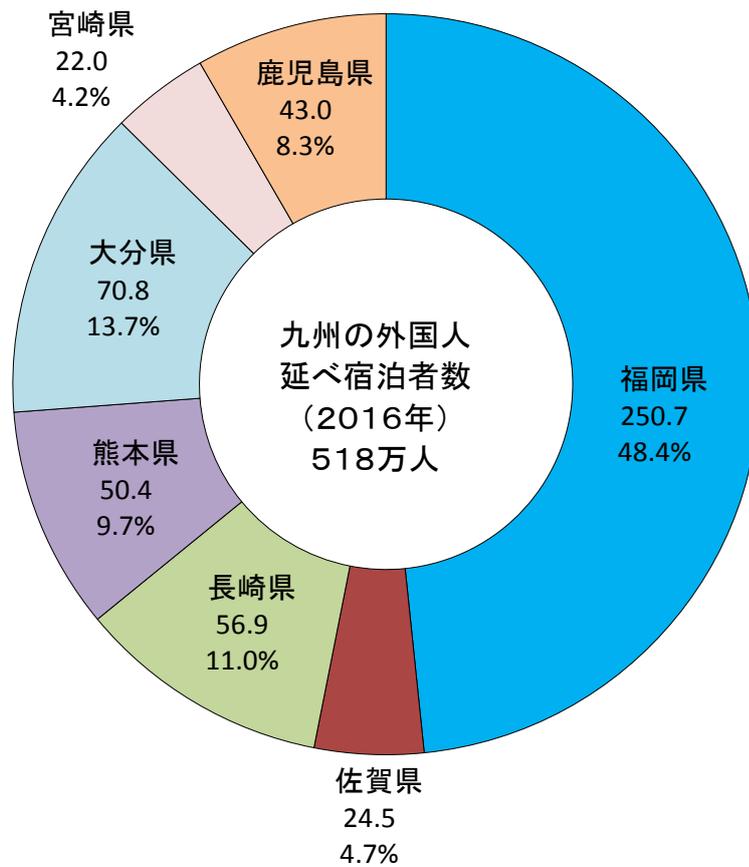
出所：PROFILE OF KYUSHU より。

図表 1-4-5 九州と全国の外国人延べ宿泊者数の国籍別構成比 (2016 年)



図表 1-4-6 九州の外国人延べ宿泊者数の県別構成比 (2016 年)

(単位：万人、%)



図表 1-4-5~6 備考：従業員 10 人以上の宿泊施設が対象。

図表 1-4-5~6 出所：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-7 国籍別の外国人延べ宿泊者数が多い都道府県（2016年・上位5位）

（単位：万人、％）

韓国

都道府県	宿泊者数	構成比
全国	774	100.0%
大阪府	160	20.7%
東京都	114	14.7%
沖縄県	97	12.5%
福岡県	96	12.4%
北海道	88	11.4%

香港

都道府県	宿泊者数	構成比
全国	521	100.0%
大阪府	105	20.2%
東京都	94	18.0%
北海道	71	13.7%
沖縄県	45	8.7%
福岡県	29	5.5%

中国

都道府県	宿泊者数	構成比
全国	1,687	100.0%
東京都	370	21.9%
大阪府	273	16.2%
北海道	145	8.6%
千葉県	140	8.3%
愛知県	116	6.9%

台湾

都道府県	宿泊者数	構成比
全国	1,053	100.0%
東京都	188	17.9%
大阪府	163	15.5%
北海道	136	12.9%
沖縄県	85	8.1%
京都府	62	5.9%

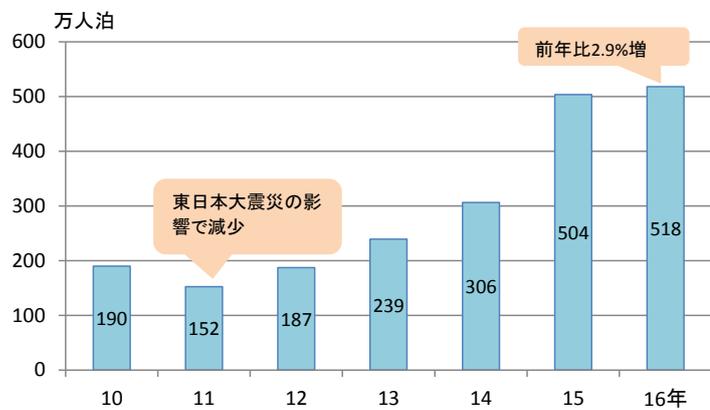
備考：従業員10人以上の宿泊施設が対象。

出所：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」より九州経済産業局作成。

【トピックス】九州における外国人延べ宿泊数の推移について

- ・訪日外国人旅行者数の増加とともに、九州においても外国人延べ宿泊者数の増加傾向が続いている（右下図参照）。特に2016年については、九州各県の宿泊施設（従業員10名以上）に宿泊した外国人延べ宿泊者数が2年連続500万人泊を超えたものの、前年比+2.9%と微増であった。

【図表】九州の外国人延べ宿泊者数の推移



出所：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

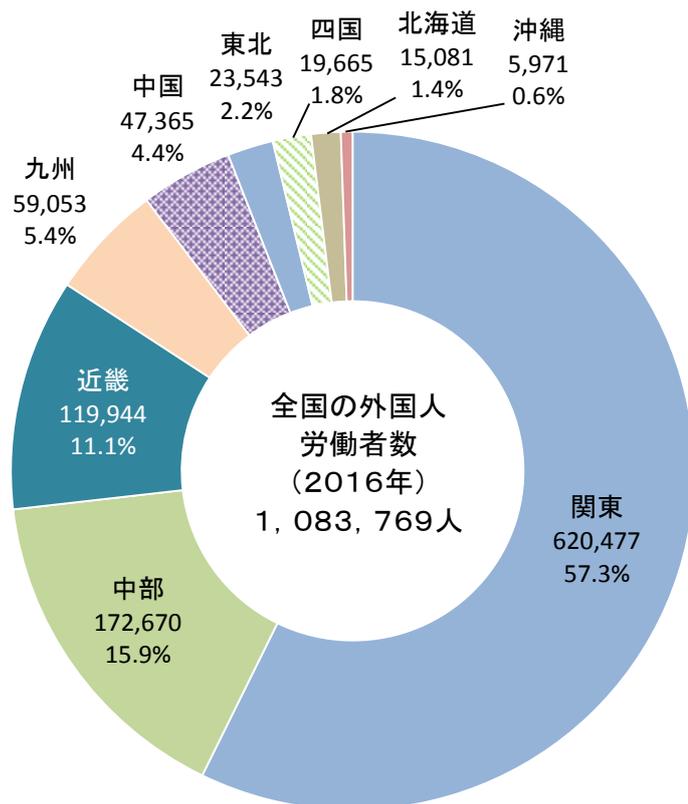
- ・県別では、福岡県（寄与度+5.6%）、佐賀県（同+1.3%）、鹿児島県（同+1.1%）、大分県（同+0.3%）、宮崎県（同+0.1%）で上回ったものの、熊本県（同-3.8%）、長崎県（同-2.1%）と前年を下回った。
- ・宿泊者の国籍別では香港（寄与度+2.0%）、中国（同+1.1%）など伸びてるところもあるが、逆にタイ（同-0.7%）、台湾（同-0.4%）など減少しているところもあった。

2. 外国人労働者の状況

- 2016年の全国の外国人労働者数は1,083,769人（前年同期比19.4%増）で、4年連続で過去最高を更新した。地域別では、関東が57.3%と最も多く、次いで中部（15.9%）、近畿（11.1%）等となっている。国籍別では、中国（香港等含む）が31.8%と最も多く、次いでベトナム（15.9%）、フィリピン（11.8%）等となっている。
- 九州の外国人労働者数は59,053人（全国比5.4%）で、前年同期比21.9%増と大きく増加した。産業別では、製造業が28.2%と最も多く、次いで卸売業・小売業（15.1%）、宿泊業・飲食サービス業（9.3%）等となっている。在留資格別では、技能実習が33.3%と最も多く、次いで留学（30.3%）、身分に基づく在留資格（永住者等）（17.3%）等となっている。2016年は特に留学や技能実習の伸びが全体を押し上げており、また九州は全国に比べてこの2資格での在留割合が高くなっている。

図表 1-4-8 地域別外国人労働者数（2016年）

（単位：人、%）

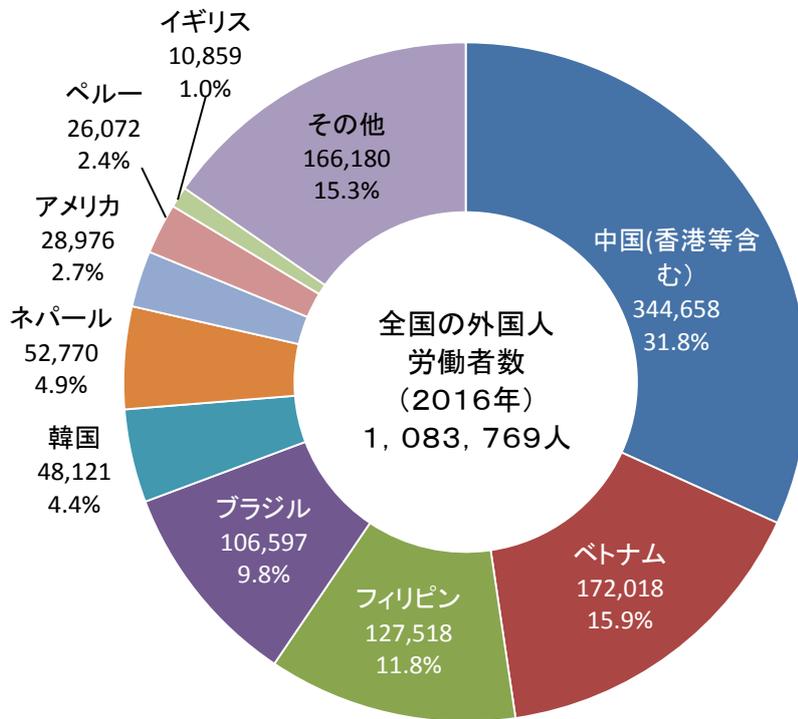


備考：地域の区分は経済産業局の管轄区域に準ずる。

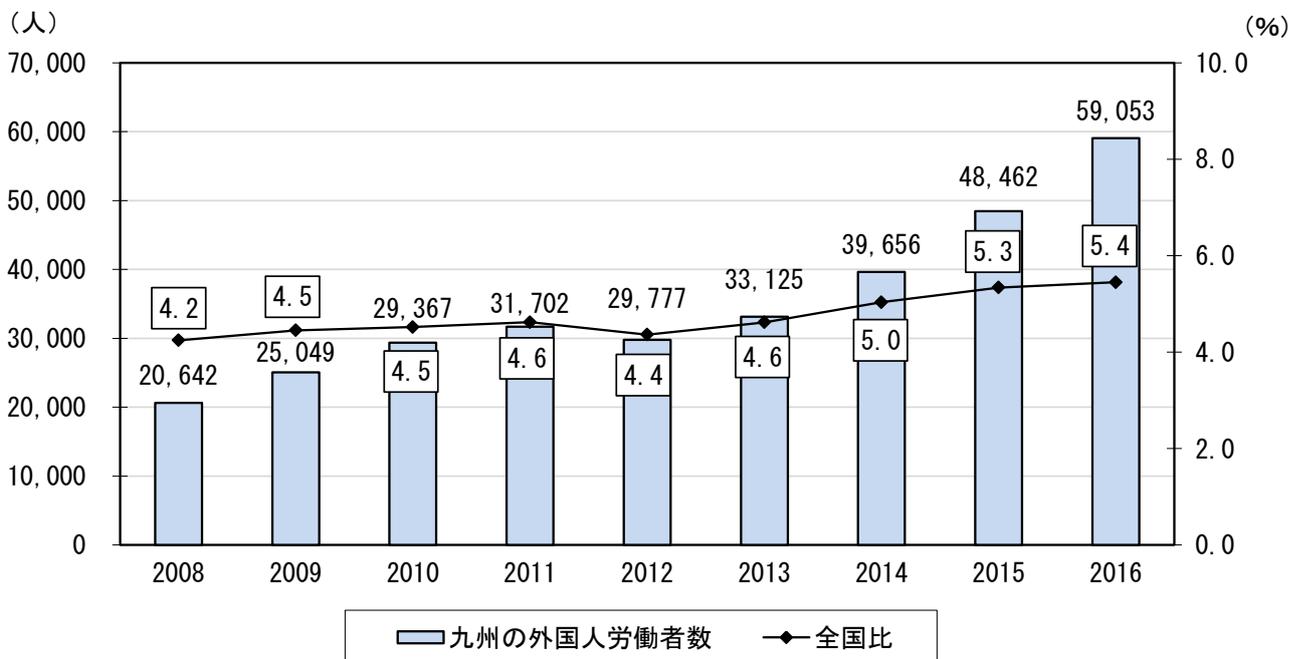
出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-9 全国の国籍別の外国人労働者数

(単位：人、%)



図表 1-4-10 九州の外国人労働者数と全国比の推移



図表 1-4-9~10 出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-11 九州と全国の産業別の外国人労働者数（2016年）

（単位：人、％）

産業	九州			全国	
	人数	構成比	全国比	人数	構成比
製造業	16,637	28.2%	4.9%	338,535	31.2%
卸売業・小売業	8,946	15.1%	6.4%	139,309	12.9%
教育・学習支援業	5,108	8.6%	8.5%	59,963	5.5%
宿泊業・飲食サービス業	5,506	9.3%	4.2%	130,908	12.1%
建設業	2,197	3.7%	5.3%	41,104	3.8%
情報通信業	540	0.9%	1.2%	43,758	4.0%
サービス業（他に分類されないもの）	6,314	10.7%	4.1%	153,994	14.2%
上記以外	13,805	23.4%	7.8%	176,198	16.3%
全産業計	59,053	100.0%	5.4%	1,083,769	100.0%

図表 1-4-12 九州と全国の在留資格別の外国人労働者の割合（2016年）

（単位：人、％）

在留資格	九州			全国	
	人数	構成比	全国比	人数	構成比
専門的・技術的分野の在留資格	8,733	14.8%	4.3%	200,994	18.5%
うち「技術・人文知識・国際業務」	4,962	8.4%	3.3%	148,538	13.7%
特定活動	807	1.4%	4.3%	18,652	1.7%
技能実習	19,657	33.3%	9.3%	211,108	19.5%
留学	17,888	30.3%	8.5%	209,657	19.3%
その他	1,740	2.9%	5.8%	29,920	2.8%
身分に基づく在留資格（永住者等）	10,228	17.3%	2.5%	413,389	38.1%
不明	0	0.0%	0.0%	49	0.005%
全在留資格計	59,053	100.0%	5.4%	1,083,769	100.0%

図表 1-4-11 備考：「サービス業（他に分類されないもの）」には、労働者派遣業、ビルメンテナンス業等が含まれる。

図表 1-4-12 備考：「専門的・技術的分野の在留資格」には、「教授」、「芸術」、「宗教」、「報道」、「高度専門職 1号・2号」、「経営・管理」、「法律・会計業務」、「医療」、「研究」、「教育」、「技術・人文知識・国際業務」、「企業内転勤」、「興行」、「技能」が該当。

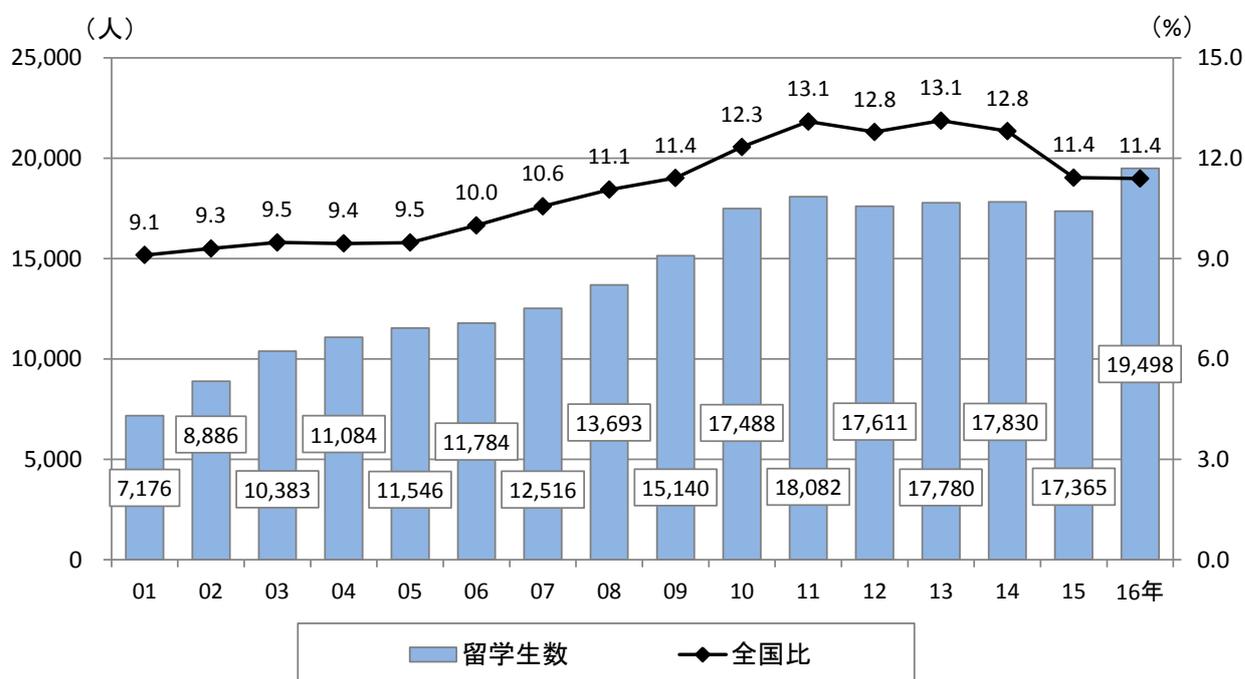
「特定活動」にはワーキング・ホリデー、外交官に雇用される家事使用人等が該当。

図表 1-4-11～12 出所：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」より九州経済産業局作成。

3. 留学生の状況

- 2016年の九州の留学生は19,498人（前年比12.3%増、全国比11.4%）で過去最高となった。2016年は前年を上回り、10年前の2006年と比べると1.6倍に増加しており、九州における留学生の受け入れは長期的に増加傾向となっている。国籍別では中国が35.9%と最も多く、次いでベトナム（19.8%）、ネパール（15.6%）等となっており、アジアからの留学生が9割以上を占めている。
- 2016年に日本企業等に就職した留学生は、全国で19,435人（前年比24.1%増）と前年より大幅に増加した。就職先の業種については非製造業が8割以上を占めており、うち「商業・貿易」や「コンピューター関連」、「飲食業」が上位を占めている。また、職務内容については、「翻訳・通訳」や「販売・営業」、「海外業務」が上位を占めている。
- 九州の企業等に就職した留学生は936人（前年比21.7%増）と前年より増加したものの、全国比は4.8%と前年より減少した。留学生の就職先企業等の所在地を県別に見ると、東京都が約半数（全国比47.7%）を占めるなど最も多く、次いで大阪府（同10.2%）、神奈川県（同5.6%）などとなっており、九州地域では福岡県（同3.6%）が第6位となっている。

図表 1-4-13 九州の留学生数の推移



出所：（独）日本学生支援機構「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-14 留学生受け入れ主要大学

<2015年>			<2016年>		
順位	学校名	人数	順位	学校名	人数
1	早稲田大学(私立)	4,603人	1	早稲田大学(私立)	4,767人
2	東京大学(国立)	2,990人	2	東京大学(国立)	3,260人
3	日本経済大学(私立)	2,835人	3	東京福祉大学	3,000人
4	立命館アジア太平洋大学(私立)	2,649人	4	立命館アジア太平洋大学(私立)	2,818人
5	九州大学(国立)	2,097人	5	日本経済大学(私立)	2,708人
6	大阪大学(国立)	2,094人	6	筑波大学(国立)	2,326人
7	筑波大学(国立)	2,062人	7	大阪大学(国立)	2,184人
8	京都大学(国立)	1,814人	8	九州大学(国立)	2,089人
9	東北大学(国立)	1,661人	9	京都大学(国立)	2,009人
10	名古屋大学(国立)	1,613人	10	東北大学(国立)	1,941人

出所：(独) 日本学生支援機構「平成 27 年度外国人留学生在籍状況調査結果」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-15 九州と全国の国籍別留学生の受け入れ状況 (2016 年)

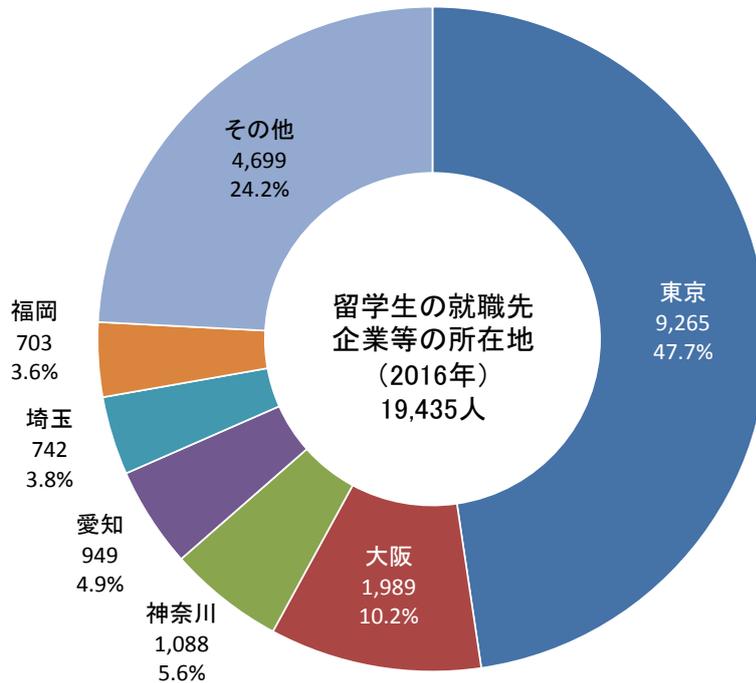
(単位：人、%)

国・地域	九州			全国	
	人数	構成比	全国比	人数	構成比
アジア	18,200	93.3%	11.6%	156,556	91.5%
中国	7,005	35.9%	9.3%	75,262	44.0%
ベトナム	3,866	19.8%	13.5%	28,579	16.7%
韓国	1,581	8.1%	11.6%	13,571	7.9%
ネパール	3,037	15.6%	22.6%	13,456	7.9%
インドネシア	625	3.2%	17.0%	3,670	2.1%
タイ	482	2.5%	15.1%	3,185	1.9%
台湾	370	1.9%	5.8%	6,401	3.7%
マレーシア	171	0.9%	6.6%	2,581	1.5%
バングラディッシュ	252	1.3%	18.0%	1,402	0.8%
その他アジア	811	4.2%	9.6%	8,449	4.9%
中東	136	0.7%	8.6%	1,587	0.9%
アフリカ	262	1.3%	14.1%	1,857	1.1%
オセアニア	86	0.4%	13.9%	618	0.4%
北米	216	1.1%	7.9%	2,742	1.6%
中南米	107	0.5%	8.3%	1,293	0.8%
欧州	491	2.5%	7.6%	6,466	3.8%
その他(無国籍)				3	0.0%
計	19,498	100.0%	11.4%	171,122	100.0%

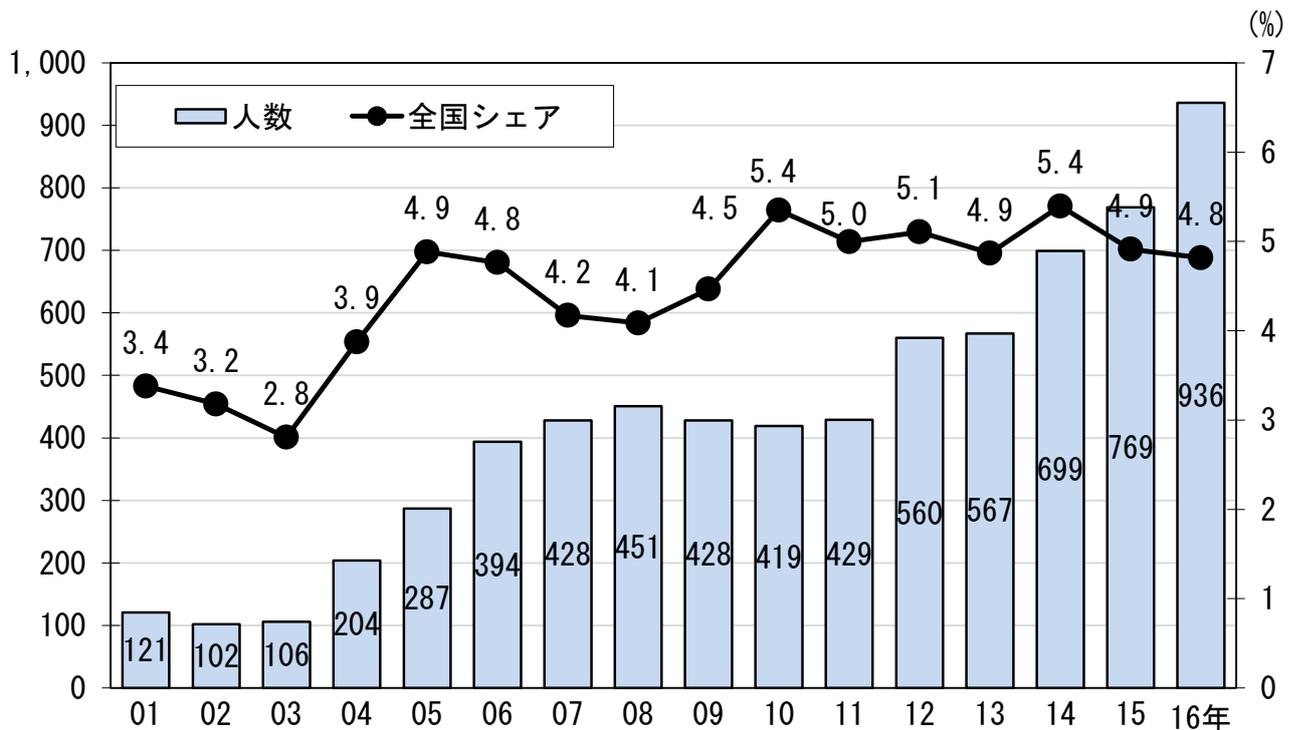
出所：(独) 日本学生支援機構「留学生調査 (2016 年 5 月 1 日現在)」のデータより九州経済産業局作成。

図表 1-4-16 日本企業等に就職した留学生数（就職先企業等の所在地・2016年）

（単位：人、％）



図表 1-4-17 九州の企業等に就職した留学生数の推移



図表 1-4-16 備考：日本企業等への就職を目的として在留資格変更の許可を受けた留学生の人数。地域の区分は経済産業局の管轄区域に準ずる。

図表 1-4-16～17 出所：法務省入国管理局「平成 28 年における留学生の日本企業等への就職状況について」より九州経済産業局作成。

図表 1-4-18 留学生の就職先の業種・職務内容（全国・2016年）

（単位：人、％）

業種	人数	構成比
製造業	3,968	15.7%
電機	585	2.3%
一般機械	534	2.1%
食品	607	2.4%
自動車	388	1.5%
化学	142	0.6%
繊維	155	0.6%
鉄鋼	84	0.3%
その他製造業	1,473	5.8%
非製造業	21,263	84.3%
商業（貿易）	5,202	20.6%
コンピュータ関連サービス	2,374	9.4%
教育	634	2.5%
飲食業	1,334	5.3%
ホテル・旅館	756	3.0%
旅行業	576	2.3%
建設	660	2.6%
運輸	496	2.0%
医療	61	0.2%
金融保険	275	1.1%
その他	8,895	35.3%
合計	25,231	100.0%

職務内容	人数	構成比
販売・営業	4,759	15.2%
翻訳・通訳	7,515	24.0%
技術開発（情報処理分野）	1,990	6.4%
経営・管理業務	916	2.9%
教育	516	1.7%
設計	1,167	3.7%
技術開発（情報処理分野以外）	1,352	4.3%
海外業務	3,103	9.9%
貿易業務	1,689	5.4%
会計業務	860	2.8%
医療	257	0.8%
調査研究	490	1.6%
広報・宣伝	951	3.0%
国際金融	128	0.4%
その他	5,572	17.8%
合計	31,265	100.0%

備考：複数の項目にチェックがあったものは重複して計上している。

出所：法務省入国管理局「平成27年における留学生の日本企業等への就職状況について」より九州経済産業局作成。

【トピックス】観光について

・我が国の2016年の訪日外客数は2,404万人(九州では231万人※)で、前年比17.9%増となり、2,000万人を突破した。訪日外客数でもっとも多いのは中国で637万4千人(九州は19万4千人※)次いで韓国で509万人(九州は138万8千人※)。

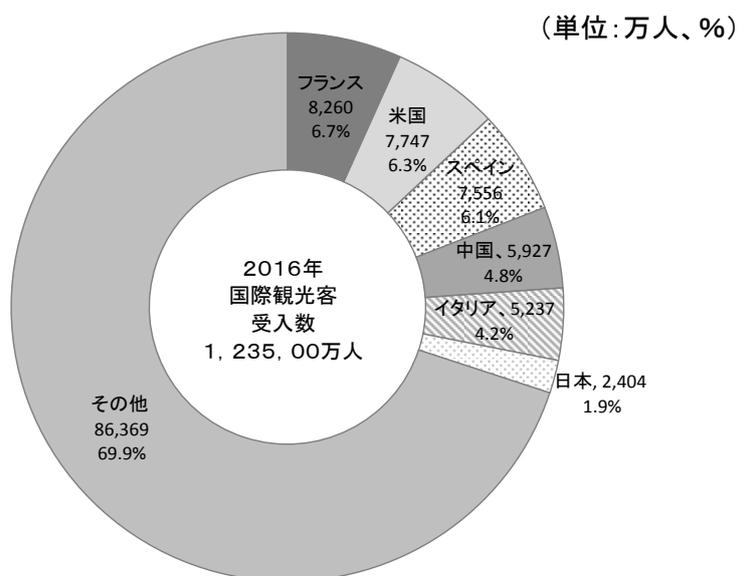
※九州の数値は、外国人入国者数

・2016年の世界の海外旅行者数(国際観光客受入数)は12億3,500万人になった。そのなかで、世界各国・地域への外国人訪問者数で見ると、日本は16位。(前年は16位)

・我が国の延べ宿泊者数では、2011年(平成23年)の東日本大震災の影響で、その年の外国人宿泊者数は大きく減少したものの、その後は、増加傾向にある。

2016年全世界外国人訪問者数

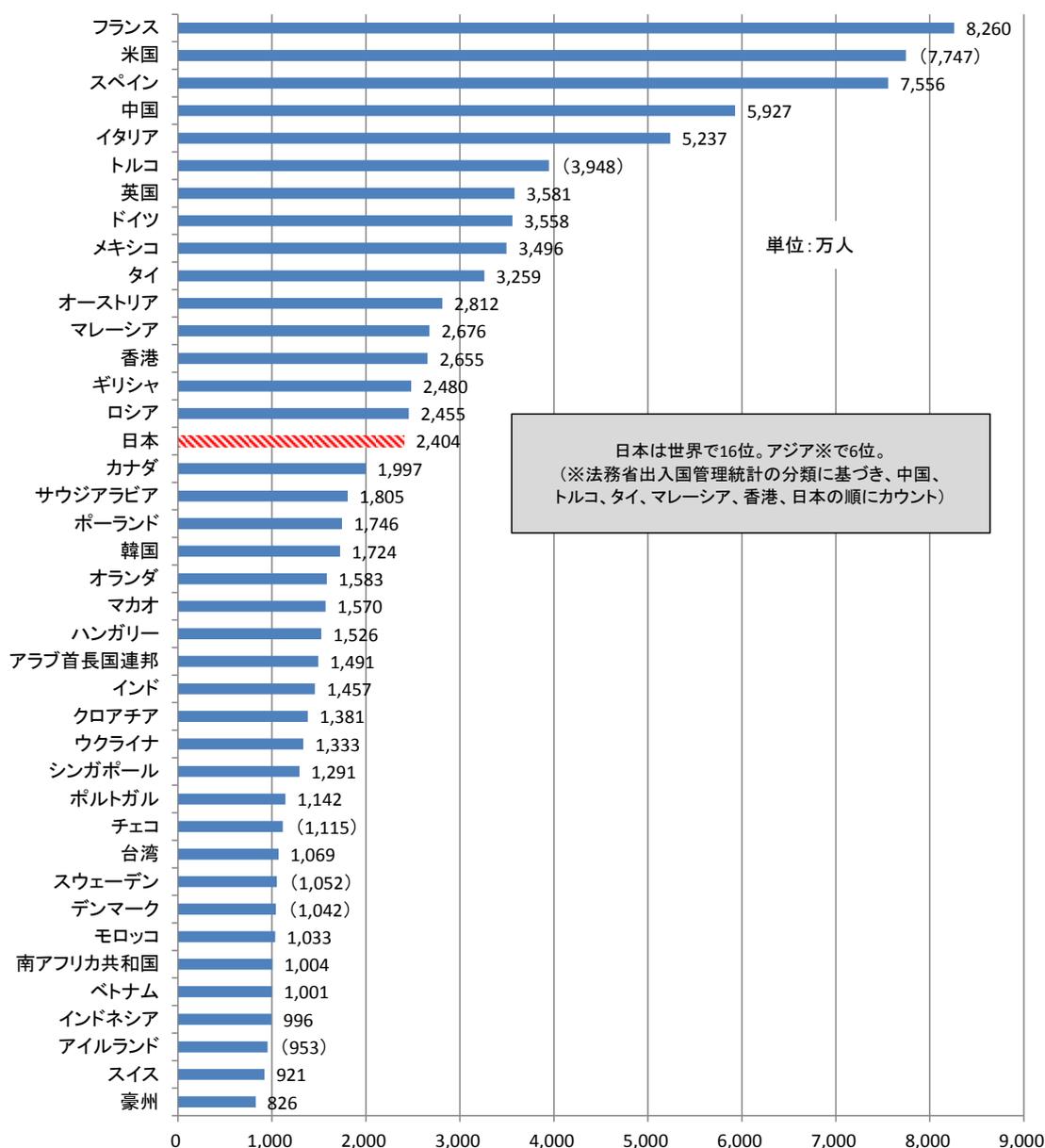
	万人	%
1位: フランス	8,260	6.7
2位: 米国	7,747	6.3
3位: スペイン	7,556	6.1
4位: 中国	5,927	4.8
5位: イタリア	5,237	4.2
⋮		
16位: 日本	2,404	1.9
その他	86,369	69.9
全世界	123,500	100.0



出所: 日本政府観光局(JNTO)、国連世界観光機構(UNWTO)より九州経済産業局作成。

※2017年6月現時暫定値

世界各国・地域への外国人訪問者数(2016年上位40位)



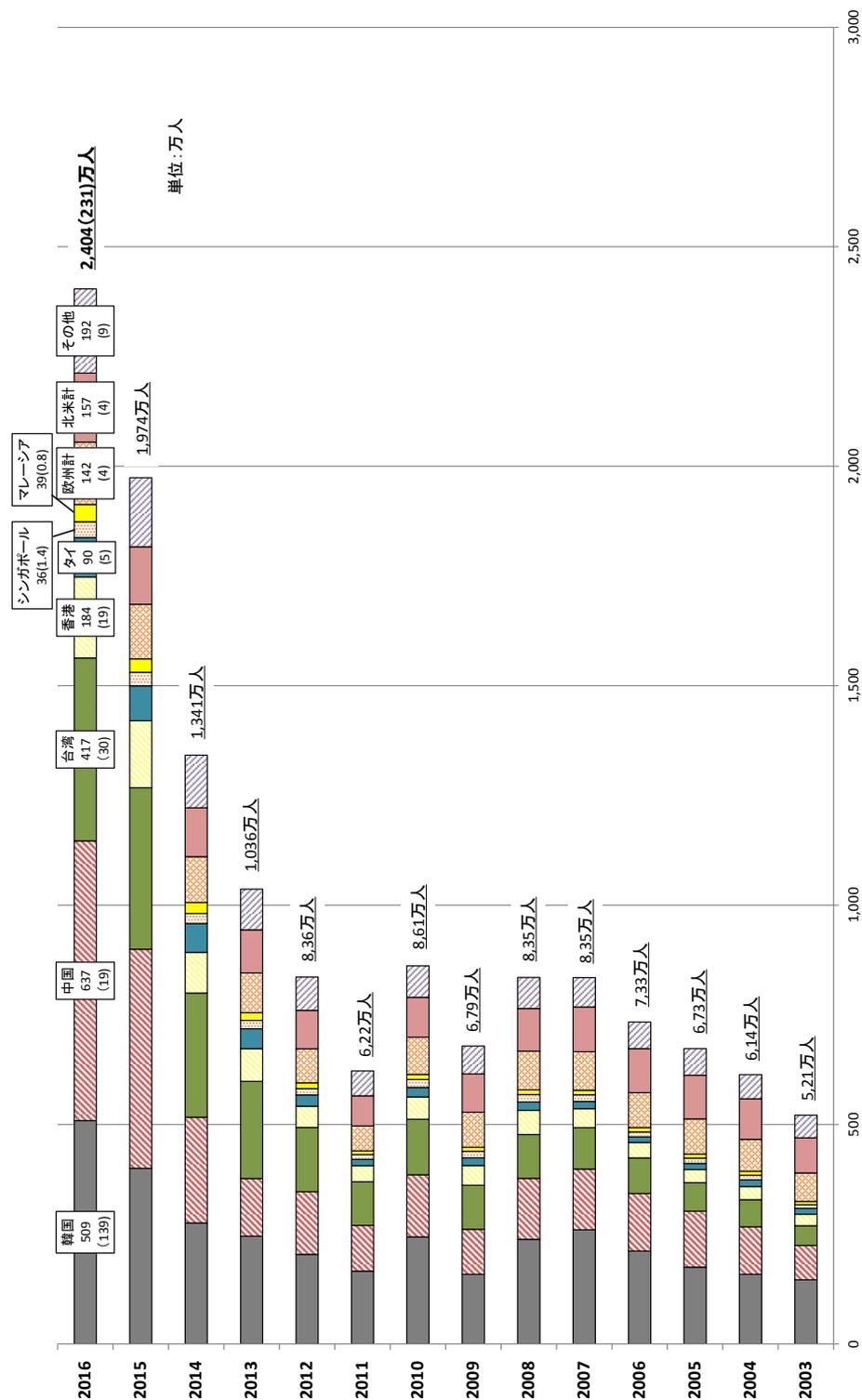
出所: 日本政府観光局(JNTO)より九州経済産業局作成。

※本数値は、2017年6月時点の暫定値

※()は、2015年数値、ただし、スウェーデンは2014年数値。

※アラブ首長国連邦は、ドバイ首長国のみの値。

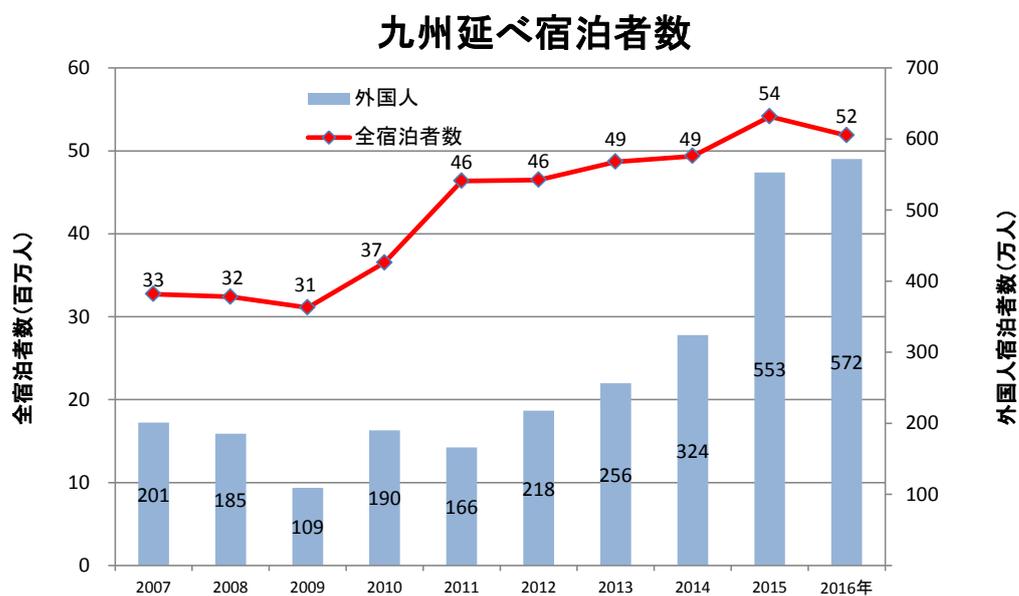
訪日外客数の推移



備考: ()内の数値は、九州の外国人入国者数。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、法務省「出入国管理統計」より九州経済産業局作成。

延べ宿泊者数の推移



出所：国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査結果（第2表）」より九州経済産業局作成。